

2013.8.1 改正 2012.9.24 改正 2012.4.1 改正, 2011.4.1 改正, 2010.4.1 改正

下水道施設標準図面集

平成25年度

東 広 島 市

目 次

工 種	図 面 種 別	図 面 番 号	備 考
管 布 設 工	管布設標準図	1	
	本管布設標準断面図	2	
	管路土留工標準図(1/2) (軽量鋼矢板・建込引抜工)	3	
	管路土留工標準図(2/2) (たて込簡易土留工法)	4	
	小口径管推進工法用鉄筋コンクリート管 (内径200～700耗) 布設図(1/2)	5	
	小口径管推進工法用鉄筋コンクリート管 (内径200～700耗) 布設図(2/2)	6	
	推進工法用鉄筋コンクリート管 (内径800～1,500耗) 布設図(1/2)	7	
	推進工法用鉄筋コンクリート管 (内径800～1,500耗) 布設図(2/2)	8	
	硬質塩化ビニル管 (内径150～600耗) 布設図	9	
	強化プラスチック複合管 (内径200～2,000耗) 布設図	10	
	リブ付硬質塩化ビニル管 (内径200～500耗) 布設図	11	
	下水道推進工法用硬質塩化ビニル管 (呼び径150～450耗) 布設図	12	
マン ホ ー ル 設 置 工	特0号組立マンホール標準構造図 (参考図)	13	
	0号組立マンホール標準構造図 (参考図)	14	
	楕円組立マンホール標準構造図 (参考図)	15	
	1号組立マンホール標準構造図 (参考図)	16	
	2号組立マンホール標準構造図 (参考図)	17	
	3号組立マンホール標準構造図 (参考図)	18	
	小型マンホール (レジン製) 標準図	19	

工 種	図 面 種 別	図 面 番 号	備 考
マン ホ ール 設 置 工	小型マンホール(コンクリート製)標準図	20	
	小型マンホール(塩ビ製)標準図(標準部・落差部)	21	
	小型マンホール(リブ付塩ビ製)標準図(標準部・落差部)	22	
	小型マンホール(起点)標準図(参考)	23	
	小型マンホール(塩ビ製)標準図(インバート)	24	
	小型マンホール蓋(塩ビ製,リブ付き塩ビ製用)構造図	25	
	東広島市型下水道用鋳鉄製マンホール蓋φ600(参考図)	26	
	各種インバート図	27	
	副管構造図(内副管の場合)	28	
	副管構造図(外副管の場合)	29	
	マンホールポンプ一般図(参考図)	30	
	圧送管接続方法(参考図)	31	
	1号マンホール構造図(現場打)(参考図)	32	
	1号マンホール配筋図(参考図)	33	
	2号マンホール構造図(現場打)(参考図)	34	
	2号マンホール配筋図(参考図)	35	
	3号マンホール構造図(現場打)(参考図)	36	
	3号マンホール配筋図(参考図)	37	

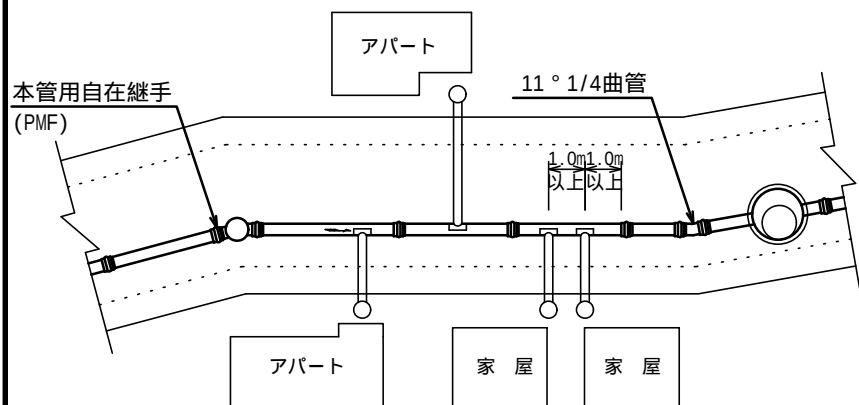
工 種	図 面 種 別	図 面 番 号	備 考
取 付 桝 設 置 及 び 取 付 管 工	取付管標準構造図（Aタイプ，Bタイプ）	38	
	取付管標準構造図（Cタイプ，Dタイプ）	39	
	取付管標準構造図（露出配管）	40	
	公共桝（汚水）構造図（インバートタイプ）	41	
	公共桝（汚水）用蓋 立上り管φ200用防護蓋タイプT-8	42	
	公共桝（汚水）用蓋 φ200塩ビ製蓋タイプT-2	43	
付 帯 工	舗装復旧施工図	44	
	舗装復旧構成図(1/2)	45	
	舗装復旧構成図(2/2)	46	
	舗装復旧構成図参考：国交省タイプ	47	
仮 設 図 な ど	鋼矢板立坑（参考図）	48	
	小型立坑鋼製方式ケーシング立坑（参考図）	49	
	ライナープレート式立坑（参考図）	50	
	薬液注入工（参考図）	51	

東広島市公共下水道標準施工図

種 別	塩ビ管布設標準図	番 号	/
--------	----------	--------	---

管 布 設 標 準 図

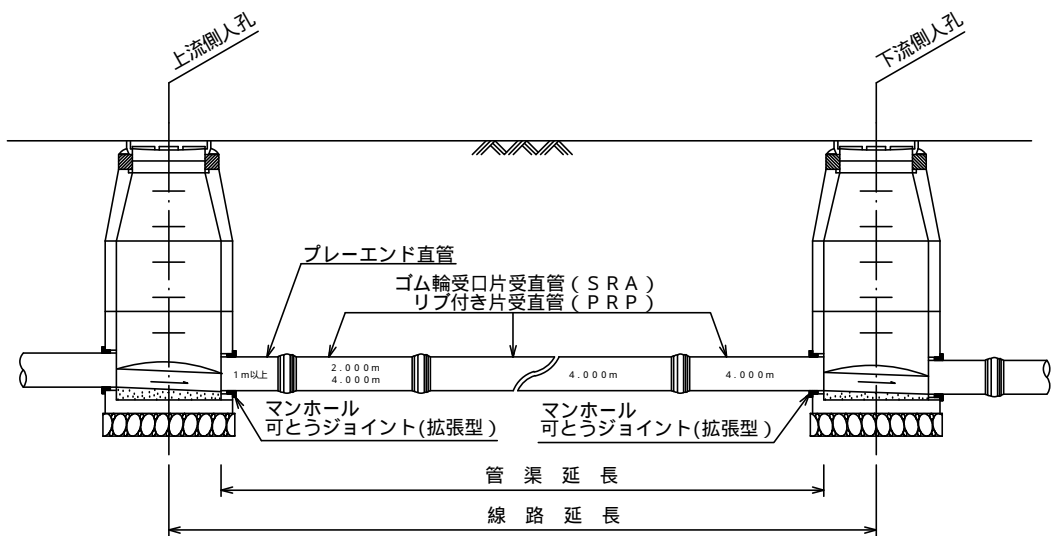
塩ビ製MHの曲管・自在継手の使用方法



- 曲管・自在継手の使用について -

- (1) 適用範囲は、22° 1/2以下とする。
- (2) 1スパンに1箇所までとする。
- (3) 曲管は、平面曲りを原則とする。
(S字にならないように布設を行い、縦断曲りは行わない。)
- (4) 自在継手は、小型マンホールに本管用自在継手(PMF)を設置するものを言う。
(本管用自在継手(PMF)は、上流側へ設置すること。
自在付き小型マンホールの使用は、原則認めない。
やむをえず使用する場合は、必ず協議を行うこと。)
- (5) 曲管と自在継手(PMF)の組合せは原則として使用しない。
- (6) 曲管は、本管用曲管を使用する。

管割標準図



マンホール	管 径		減長	摘 要	マンホール	管 径	減 長	摘 要
組立式0号マンホール	350 mmまで		0.30	内径 750 mm円形	塩ビ製小型マンホール	150 mm	下流側 0.30	減長は、樹タイプに拘わらず一律とする。 内径 300 mm円形
組立式構円マンホール	300 mmまで	縦側	0.40	内法 600 × 900 mm 構円			上流側 0.20	
		横側	0.30					
1号マンホール	450 mmまで	0.40	内径 900 mm円形	200 mm		下流側 0.30		
特1号マンホール	500 ~ 600 mm	0.35				上流側 0.20		
組立式1号マンホール	600 mmまで	0.50	内径 1,200 mm円形	250 mm		下流側 0.35		
2号マンホール	700 ~ 900 mm	0.40			上流側 0.20			
特2号マンホール					曲 管	150 ~ 250mm	上下流側 0.00	
組立式2号マンホール	500 mmまで	0.70	内径 1,500 mm円形	注) 特殊マンホールの減長は、5cm単位切り捨てとする。 リップ付き塩ビ製マンホールを使用する場合は、マンホールステップに注意し、インバート図を作成すること。				
3号マンホール	600 ~ 800 mm	0.60						
	900 ~ 1,000 mm	0.50						
	1,000 ~ 1,200 mm	0.40						

本管材料は市場単価に含む。(H22.8より)
日本下水道協会規格 J S W A S 規格 K - 1, K - 13

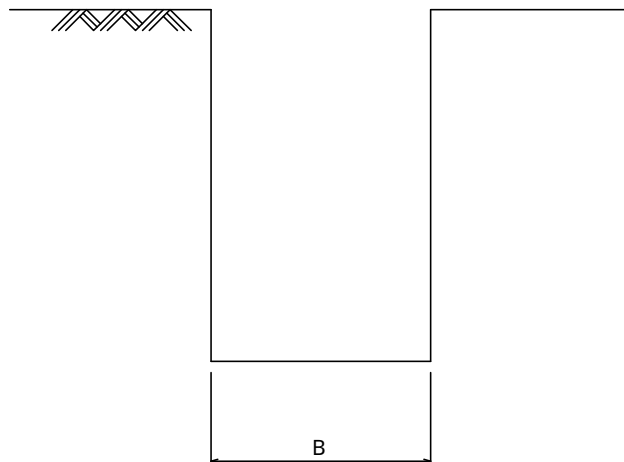
東広島市公共下水道標準施工図

種別	本管布設標準断面図	番号	/
----	-----------	----	---

本管布設標準断面図

(V U . P R P . F R P)

掘削工



埋戻工

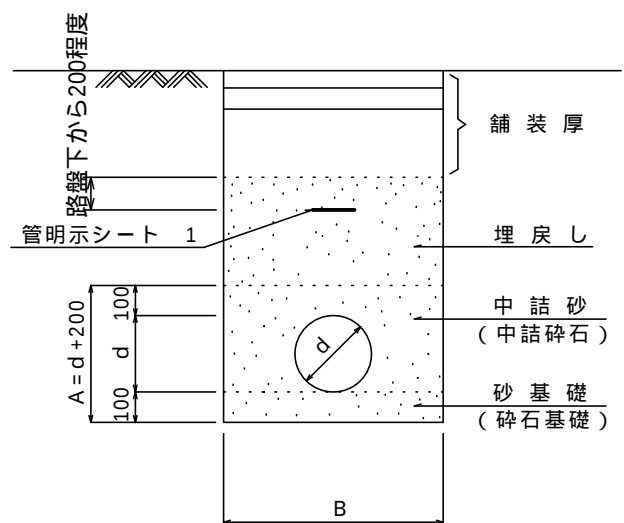


表1. 標準的な掘削幅

管径	素掘り			
	人力掘削	山積 0.08m ³	山積 0.13m ³	山積 0.28m ³
150				750
200				800
250				850
300				900

1. 圧送管および線路間が直線でない場合に管明示シートを布設する。
2. 鋳鉄管の場合の基礎は、一般的な土質に限り省略する。
3. 管目地テープについて、圧送管については、上水道管と間違われることの無いよう管頂部に管明示テープを全線貼り付ける。

施工仕様

区分	投入方法	転圧方法
埋戻し	人力投入 機械投入	タンバなど
中詰砂 砂基礎	人力投入 機械投入	タンバなど

注

- ・埋設管に衝撃を与えないように投入し、規定の基礎厚を確保すること。
- ・砂基礎部100mmはφ200mm以下の場合。
- ・dは呼び径とする。
- ・()はPRPの場合。

東広島市公共下水道標準施工図

種別	土留工標準図(1/2) (軽量鋼矢板)	番号	／
----	------------------------	----	---

管路土留工標準図(1/2)
(軽量鋼矢板・建込引抜工)

平面図

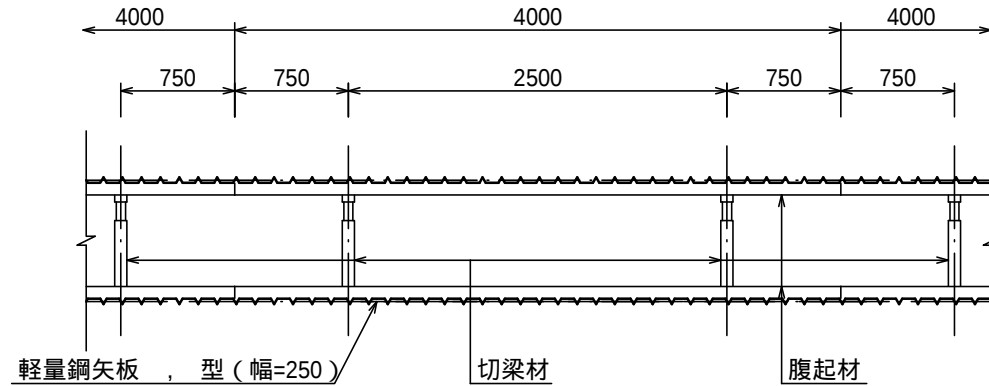
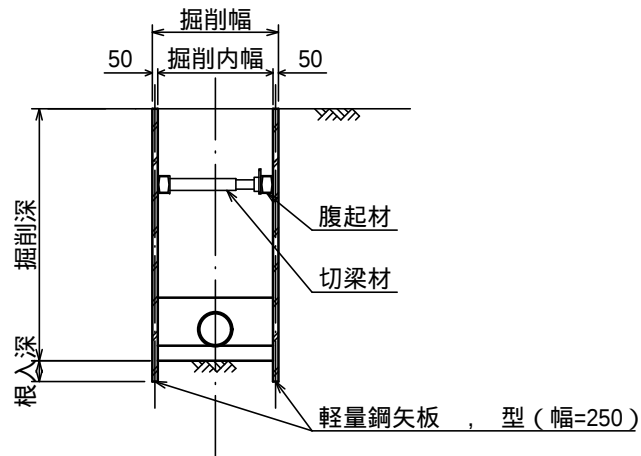


表2.標準的な掘削幅

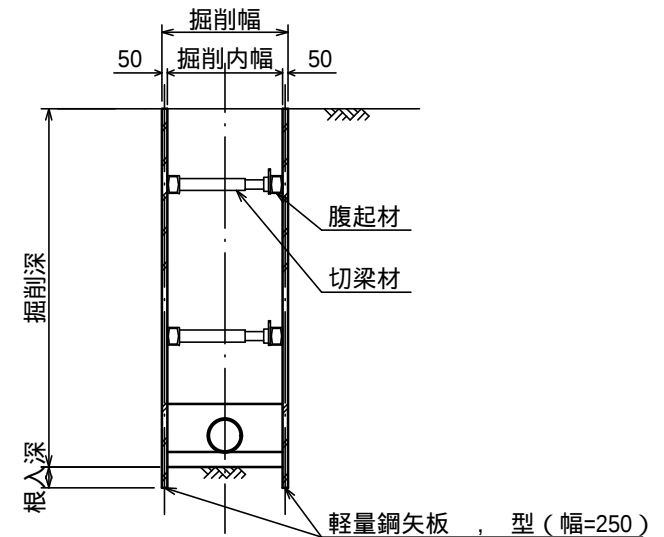
管径	軽量鋼矢板		
	山積 0.08m ³ 山積 0.13m ³	山積 0.28m ³	山積 0.45m ³
150	850	1000	1150
200	900		
250	950		
300	1000		

断面図

軽量鋼矢板 支保 1 段
[H 2.0]



軽量鋼矢板 支保 2 段
[2.0<H 3.3]



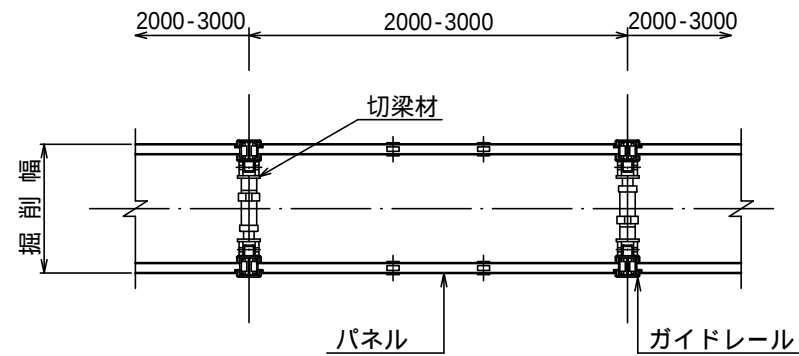
軽量鋼矢板は20cm程度の根入れが必要である。
矢板厚は、両側で100mmを見込んでいます。

東広島市公共下水道標準施工図

種別	土留工標準図(2/2) (たて込簡易土留工)	番号	／
----	---------------------------	----	---

土留工標準図(2/2)
(たて込簡易土留工法)

平面図



断面図

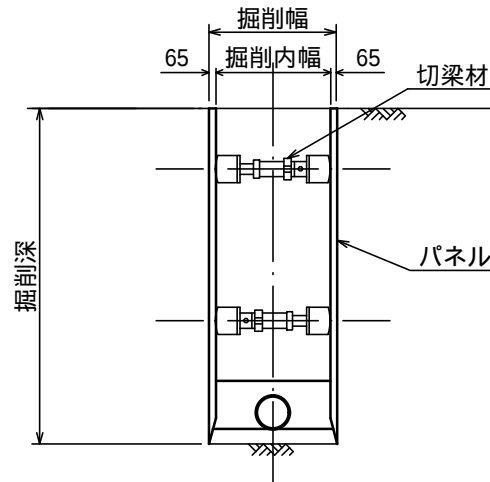


表3.標準的な掘削幅

管径	たて込み簡易土留	
	山積 0.28m ³	山積 0.45m ³
150	900	1050
200	950	
250	1000	
300	1050	

矢板厚は、両側で130mmを見込んでいる。

東広島市公共下水道標準施工図

種別	小口径管推進工法用鉄筋コンクリート管 (内径200～700耗) 布設図(1/2) JSWAS A-6	番号	／
----	--	----	---

小口径管推進工法用鉄筋コンクリート管（内径200～700耗）布設図(1/2)

JSWAS A-6

管 の 種 類

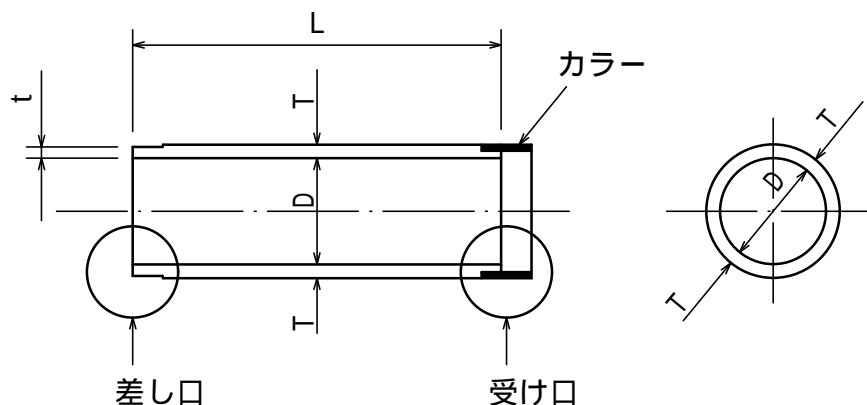
種 類				種類の 記 号	呼び径 の範囲
形 状	外圧強さ	圧縮強度	継手性能		
標準管	1 種	50	SJS SJA SJB	X51	200～700
		70		X71	
	2 種	50		X52	
		70		X52	
短管A	1 種	50		X-A51	
	2 種	50		X-A52	
短管B	1 種	50		X-B51	
	2 種	50		X-B52	

注1. 種類の記号のXは、継手性能のSJS、SJA及びSJBのいずれかを示す。
2. 継手とは、受け口及び差し口を組み合わせたものをいう。

継手性能

区 分	耐水压(MPa)	拔出し長(mm)
SJS	0.1	10
SJA	0.2	10
SJB	0.2	20

注 拔出し長とは、管と管との開きをいう。



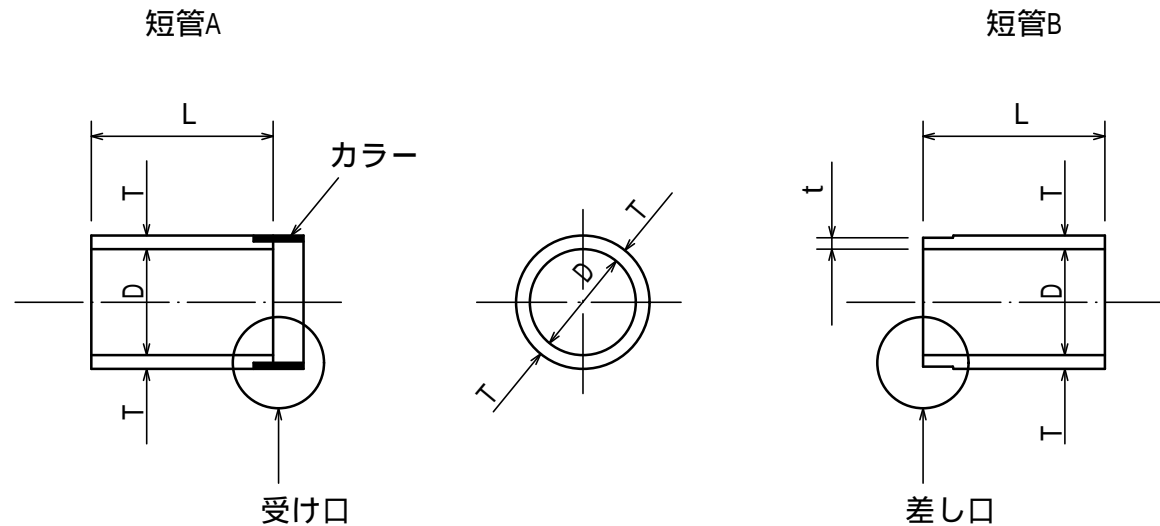
(単位：mm)

呼び径	内 径 D	厚 さ T	有効長 L	継手最小厚さ t
200	200 ± 3	59 ⁺⁴ ₋₂	2000 ⁺¹⁰ ₅	47.5
250	250 ± 3	55 ⁺⁴ ₋₂		43.5
300	300 ± 4	57 ⁺⁴ ₋₂		45.5
350	350 ± 4	60 ⁺⁴ ₋₂	2430 ⁺¹⁰ ₅	48.5
400	400 ± 4	63 ⁺⁴ ₋₂		51.5
450	450 ± 4	67 ⁺⁴ ₋₂		55.5
500	500 ± 4	70 ⁺⁴ ₋₂		58.5
600	600 ± 4	80 ⁺⁴ ₋₂		65.5
700	700 ± 4	90 ⁺⁴ ₋₂		75.5

- 注1 管の有効長(L)は、呼び径200～300については1000⁺¹⁰₅mm、呼び径350～700については、1200⁺¹⁰₅mmとすることができる。
2 管の形状は、受け口なしとすることができる。ただし、有効長は呼び径200～300については、2000⁺¹⁰₅mm、呼び径350～700については、2430⁺¹⁰₅mmとする。
3 有効長の最大と最小の差は、3mm以内とする。
4 継手最小厚さとは、継手部の最小厚さの標準をいう。

小口径管推進工法用鉄筋コンクリート管 (内径200～700耗) 布設図(2/2)
JSWAS A-6

短管の形状、寸法及び寸法の許容差



(単位：mm)

呼び径	有効長 L	内 径 D	厚 さ T	継手最小厚さ t
200～300	990 ⁺²⁰ ₋₁₀	4.2標準管の規定値と同じ。		
350～700	1200 ⁺²⁰ ₋₁₀			

東広島市公共下水道標準施工図

種別	推進工法用鉄筋コンクリート管 (内径800～1,500号) 布設図(1/2) JSWAS A-2	番号	／
----	--	----	---

推進工法用鉄筋コンクリート管(内径800～1,500号) 布設図(1/2)
JSWAS A-2

管の種類

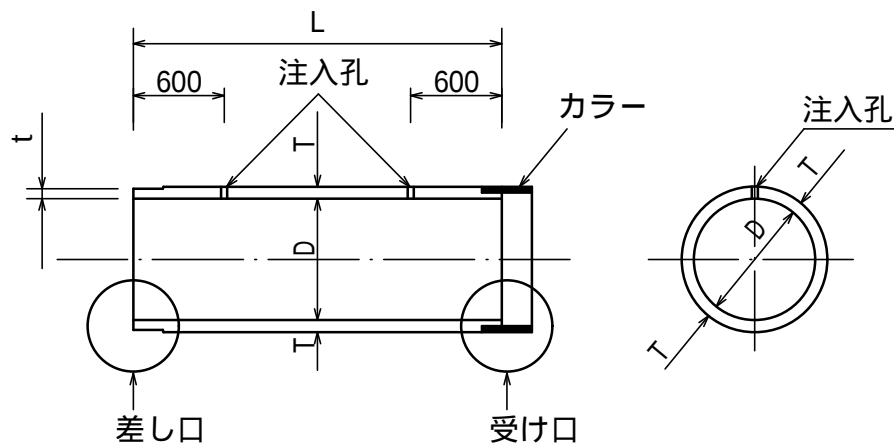
種類				種類の記号	呼び径の範囲
形状	外圧強さ	圧縮強度	継手性能		
標準管	1 種	50	JA JB JC	X51	800～3,000
		70		X71	
	2 種	50		X52	
		-		XS	
中押管	S	-		XT51	1,000～3,000
	T	-		XT52	

- 注1. 中押管は、SとTを1組として使用する。
 2. 種類の記号のXは、継手性能のJA, JB, JCのいずれかを示す。
 3. 継手とは、受け口及び差し口を組み合わせたものをいう。

継手性能

区分	耐水压(MPa)	拔出し長(mm)
JA	0.1	30
JB	0.2	40
JC	0.2	60

注 拔出し長とは、管と管との開きをいう。



(単位: mm)

呼び径	内径 D	厚さ T	有効長 L	継手最小厚さ t
800	800 ± 4	80 ⁺⁴ ₋₂	2430 ⁺¹⁰ ₋₅	65
900	900 ± 6	90 ⁺⁶ ₋₃		75
1000	1000 ± 6	100 ⁺⁶ ₋₃		85
1100	1100 ± 6	105 ⁺⁶ ₋₃		90
1200	1200 ± 6	115 ⁺⁶ ₋₃		100
1350	1350 ± 8	125 ⁺⁸ ₋₄		105
1500	1500 ± 8	140 ⁺⁸ ₋₄		120

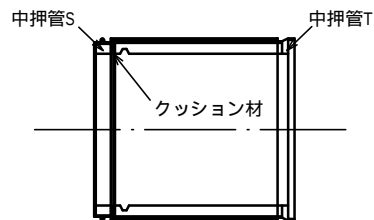
- 注1 管の有効長(L)は、1200⁺¹⁰₋₃mmとすることができる。
 2 標準管の形状は、受け口なしとすることができる。ただし、有効長は呼び径2430⁺¹⁰₋₂₀mm、1200⁺¹⁰₋₂₀mmとする。
 3 有効長の最大と最小の差は、3mm以内とする。
 4 呼び径1000以上の標準管には、緊結用埋込みナットを付けることができる。
 5 注入孔の数及び位置は、必要に応じて変えることができる。
 6 継手最小厚さとは、継手部の最小厚さの標準をいう。

東広島市公共下水道標準施工図

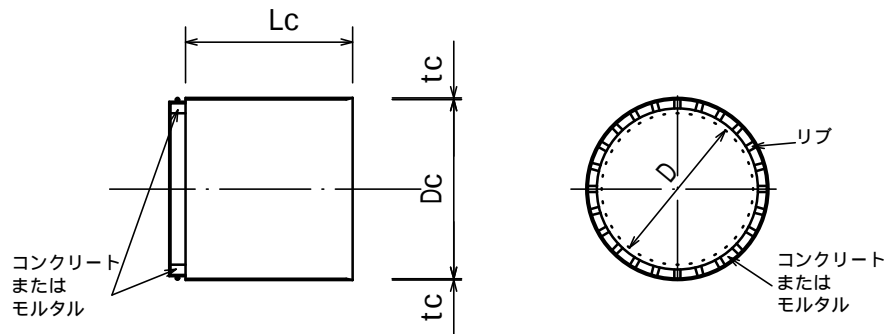
種 別	推進工法用鉄筋コンクリート管 (内径800～1,500耗) 布設図(2/2) JSWAS A-2	番 号	／
--------	--	--------	---

推進工法用鉄筋コンクリート管 (内径800～1,500耗) 布設図(2/2)
JSWAS A-2

中押管S,Tの組み合わせ



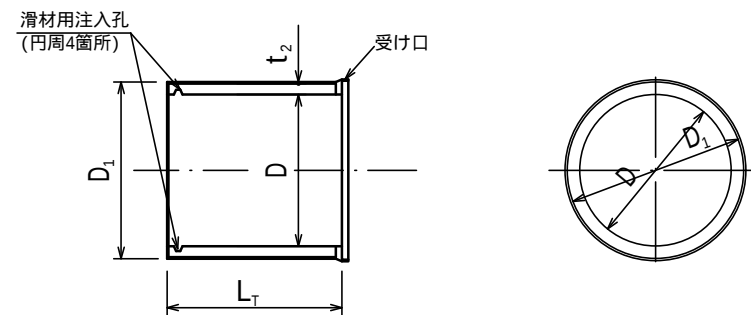
中押管Sの形状、寸法及び寸法の許容差



(単位: mm)

呼び径	内 径 D	Dc	Lc	tc
1000	1000	1182	1100 ⁺⁵ ₋₃	9
1100	1100	1292		9
1200	1200	1406		12
1350	1350	1576	1150 ⁺⁵ ₋₃	12
1500	1500	1756		12

中押管Tの形状、寸法及び寸法の許容差



(単位: mm)

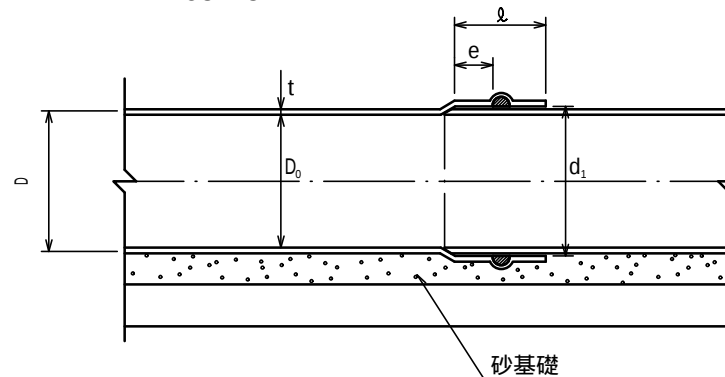
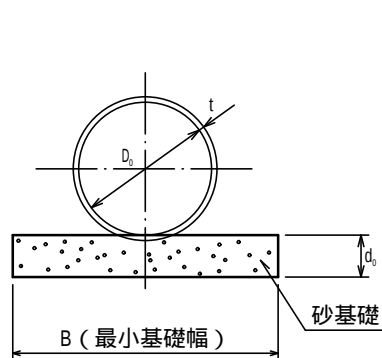
呼び径	内 径 D	D ₁	t ₂	有効長 Lt
1000	1000 ± 6	1164	6	1150 ⁺⁵ ₋₃
1100	1100 ± 6	1274		
1200	1200 ± 6	1388		
1350	1350 ± 8	1551		1200 ⁺⁵ ₋₃
1500	1500 ± 8	1731		

東広島市公共下水道標準施工図

種 別 硬質塩化ビニル管
(内径150～600耗) 布設図
(ゴム輪受口) JSWAS K-1

番 号

硬質塩化ビニル管（内径150～600耗）布設図
(ゴム輪受口)
JSWAS K-1



注) 湧水の多い場合や軟弱地盤の場合は
砕石基礎を併用すること。

寸法表

(単位: mm)

呼び径	外 径	管 厚	受 口 部			基 礎 厚	適用土被り	
	D	t	d ₁ (最小)	e	ℓ	d ₀	T-14	T-25
150	165	5.1	165.7	53	165	100	6.0m以下	6.0m以下
200	216	6.5	216.9	54	185	100	5.6m以下	5.6m以下
250	267	7.8	268.1	59	205	100	5.2m以下	5.0m以下
300	318	9.2	319.3	62	225	100	5.0m以下	4.8m以下
350	370	10.5	371.5	67	240	100	4.6m以下	4.4m以下
400	420	11.8	421.7	72	260	100	4.4m以下	4.4m以下
450	470	13.2	471.9	77	285	100	4.4m以下	4.4m以下
500	520	14.6	522.1	82	305	100	4.4m以下	4.2m以下
600	630	17.8	633.8	93	355	100	4.6m以下	4.6m以下

注) ゴム輪の形状及びゴム輪周辺部の形状は規定しない。
埋戻し土の単位体積重量は、18KN/m³で計算を行っている。異なる場合は設計を別途行うこと。

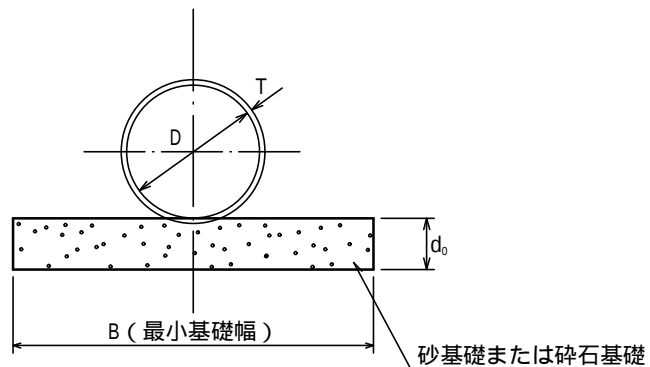
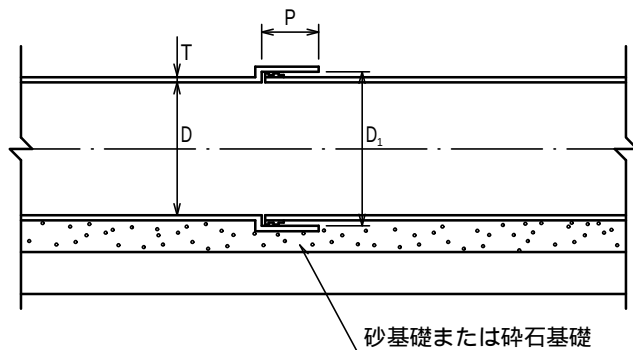
東広島市公共下水道標準施工図

強化プラスチック複合管（内径200～2,000耗）布設図

JSWAS K-16

寸法表

（単位：mm）



呼び径	厚 さ	内 径	受 口（参考）		基 礎 厚	適用土被り	
	T	D	D ₁	P	d ₀	T-14	T-25
200	7.0	200	230.5	140	100	6.0m以下	6.0m以下
250	7.5	250	281.5	140	100		
300	8.0	300	332.5	150	100		
350	8.5	350	383.5	150	100		
400	9.0	400	435.5	160	100	5.8m以下	5.8m以下
450	9.5	450	486.5	160	100	4.8m以下	4.6m以下
500	10.0	500	542.5	200	100	4.4m以下	4.4m以下
600	12.0	600	646.5	200	100		
700	16.0	700	750.5	200	100		
800	18.0	800	857.5	220	100		
900	20.0	900	961.5	220	100		
1,000	20.0	1,000	1,069.5	220	100		
1,100	22.0	1,100	1,173.5	220	200		
1,200	24.0	1,200	1,277.5	220	200		
1,350	27.0	1,350	1,433.5	220	200		
1,500	30.0	1,500	1,589.5	250	200		
1,650	33.0	1,650	1,749.5	300	200		
1,800	36.0	1,800	1,905.5	300	200		
2,000	40.0	2,000	2,113.5	330	200		

注）埋戻し土の単位体積重量は、18KN/m³で計算を行っている。異なる場合は設計を別途行うこと。

許容たわみ率4.0%（基礎材；砂）の場合で計算を行っている。

（参考：基礎材が砕石基礎場合は、許容たわみ率5.0%である。）

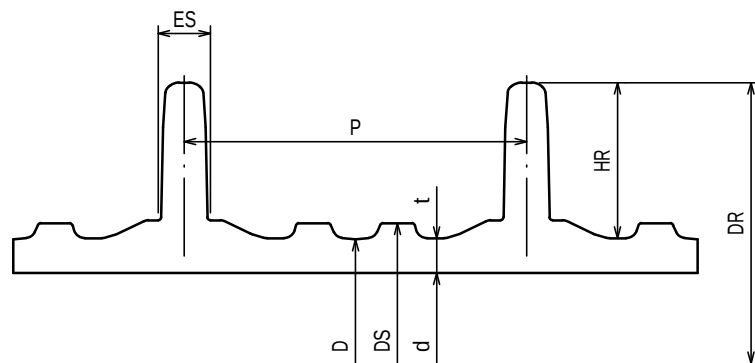
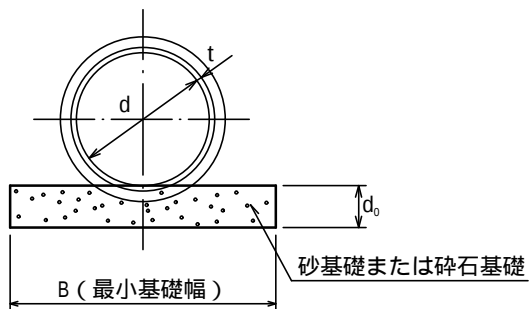
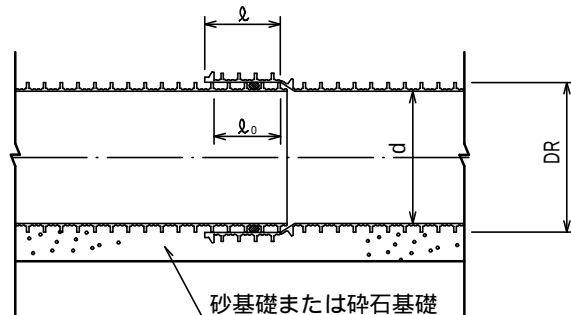
外圧強さ2種管の適用土被りを示す。（1種管では土被り6.0m以下まですべて満足する。）

東広島市公共下水道標準施工図

リブ付硬質塩化ビニル管（内径200～500耗）布設図

JSWAS K-13

種別	リブ付硬質塩化ビニル管 （内径200～500耗）布設図 JSWAS K-13	番号	／
----	--	----	---



寸法表

（単位：mm）

呼び径	厚さ t	外径 D （参考）	リブ外径 DR （参考）	リブ高さ HR （参考）	リブ間隔 P （参考）	リブ幅 ES （参考）	受口長 ℓ （参考）	基礎厚 d ₀	適用土被り T-14, T-25
150	2.4	155.5	171.0	7.7	19.1	3.1	100	100	6.0m以下
200	2.4	205.5	228.8	11.6	25.4	3.6	115	100	
250	2.7	256.1	286.2	15.0	30.5	4.4	140	100	
300	3.0	307.1	343.6	18.2	38.1	5.4	170	100	
350	3.1	357.4	400.6	21.6	38.1	5.9	170	100	
400	3.8	409.0	458.4	24.7	50.8	7.2	225	100	
450	4.0	459.3	514.6	27.6	50.8	7.8	225	100	
500	4.1	509.5	571.2	30.8	50.8	8.7	225	100	

注）ゴム輪の形状及びゴム輪周辺部の形状は規定しない。

埋戻し土の単位体積重量は、18KN/m³で計算を行っている。異なる場合は設計を別途行うこと。

適用土被り6.0mを超える場合は設計計算を別途行うこと。

東広島市公共下水道標準施工図

下水道推進工法用硬質塩化ビニル管（呼び径150～450耗）布設図
JSWAS K-6

種別	下水道推進工法用硬質塩化ビニル管 （呼び径150～450耗）布設図 JSWAS K-6	番号	／
----	---	----	---

直管の種類

種類	略号	呼び径範囲	接合方式	参考（管厚区分）
リップカラー付直管	S T R S	150～450	接 着	V U
S U S カラー付直管	S U S R	150～450	ゴム輪	V P 又は V M
スパイラル継手付直管	S S P S	150～450	接 着	V P 又は V M

備考1．リップカラー付直管の接合は、受口内面及び差し口外面に接着剤を塗布して、挿入接合する。
 2．S U S カラー付直管の接合は、シール材及びカラー内面に滑剤を塗布して、挿入接合する。
 3．スパイラル継手付直管の接合は、継手部に充填系接合剤を塗布して、ねじ込み接合する。

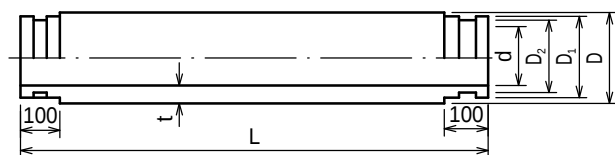
寸 法 表

（単位：mm）

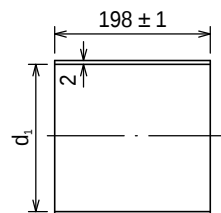
呼び径	D	D ₁	D ₂	d (参考)	d ₁	t	L
150	165 ± 0.5	160 ^{+0.6} _{-0.3}	154 ^{+0.6} _{-0.3}	146	161.3 ± 0.5	8.9 ^{+1.4} ₀	1000 ± 3
200	216 ± 0.7	211 ^{+0.6} _{-0.3}	205 ^{+0.6} _{-0.3}	194	212.3 ± 0.5	10.3 ^{+1.4} ₀	1000 ± 3 2000 ± 5
250	267 ± 0.9	262 ^{+0.6} _{-0.3}	256 ^{+0.6} _{-0.3}	240	263.3 ± 0.5	12.7 ^{+1.8} ₀	
300	318 ± 1.0	313 ^{+0.6} _{-0.3}	307 ^{+0.6} _{-0.3}	286	314.3 ± 0.5	15.1 ^{+2.2} ₀	
350	370 ± 1.2	365 ^{+1.0} _{-0.5}	359 ^{+1.0} _{-0.5}	339	366.7 ± 0.5	14.3 ^{+2.0} ₀	
400	420 ± 1.3	415 ^{+1.0} _{-0.5}	409 ^{+1.0} _{-0.5}	385	416.7 ± 0.5	16.2 ^{+2.2} ₀	
450	470 ± 1.5	465 ^{+1.0} _{-0.5}	459 ^{+1.0} _{-0.5}	431	466.7 ± 0.5	18.1 ^{+2.6} ₀	

S U S カラー付直管（略号 S U S R）

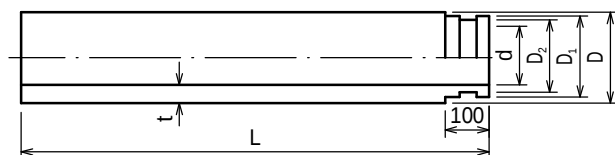
標準管



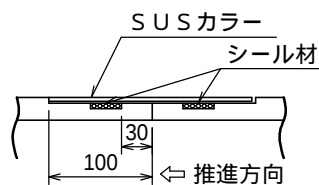
S U S カラー詳細図



先頭管及び最終管



接続部参考図



注1．D、D₁、D₂及びd₁は、任意箇所における相互に等間隔な2方向以上の直径測定値の平均値又は円周測定値を円周率3.142で除した値をいう。

2．先頭管とは先導体に接続する管で、最終管とは推進時の最後に使用する管である。また、標準管とはその間の推進時に使用する管をいう。

3．差し口先端部は、糸面取りとする。

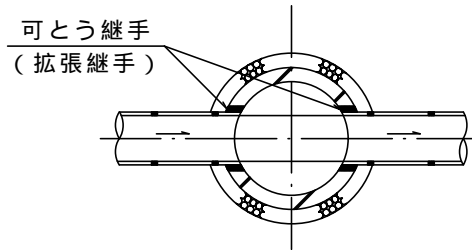
東広島市公共下水道標準施工図

種別	特0号組立マンホール標準構造図	番号	／
----	-----------------	----	---

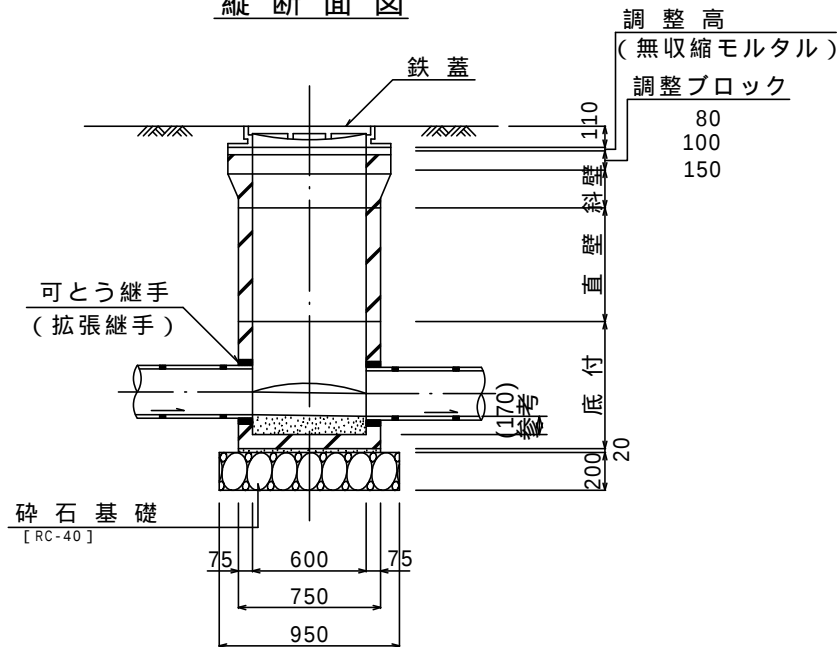
特0号組立マンホール標準構造図（参考）

記号 

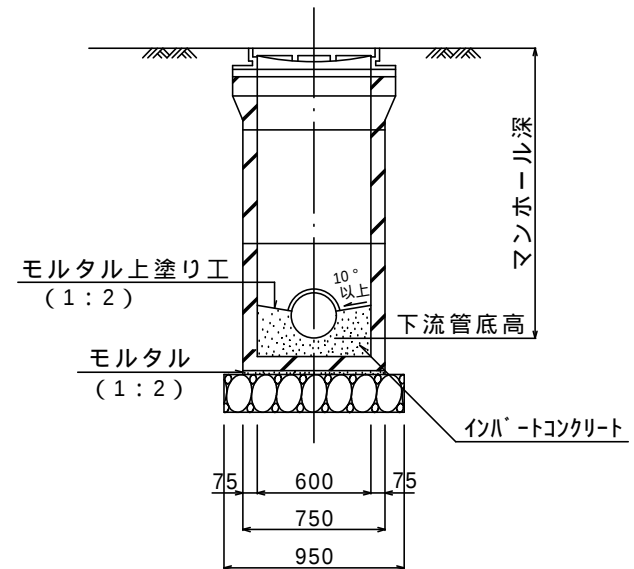
平面図



縦断面図



横断面図

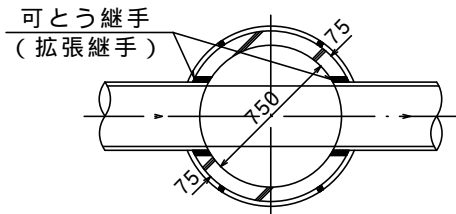


東広島市公共下水道標準施工図

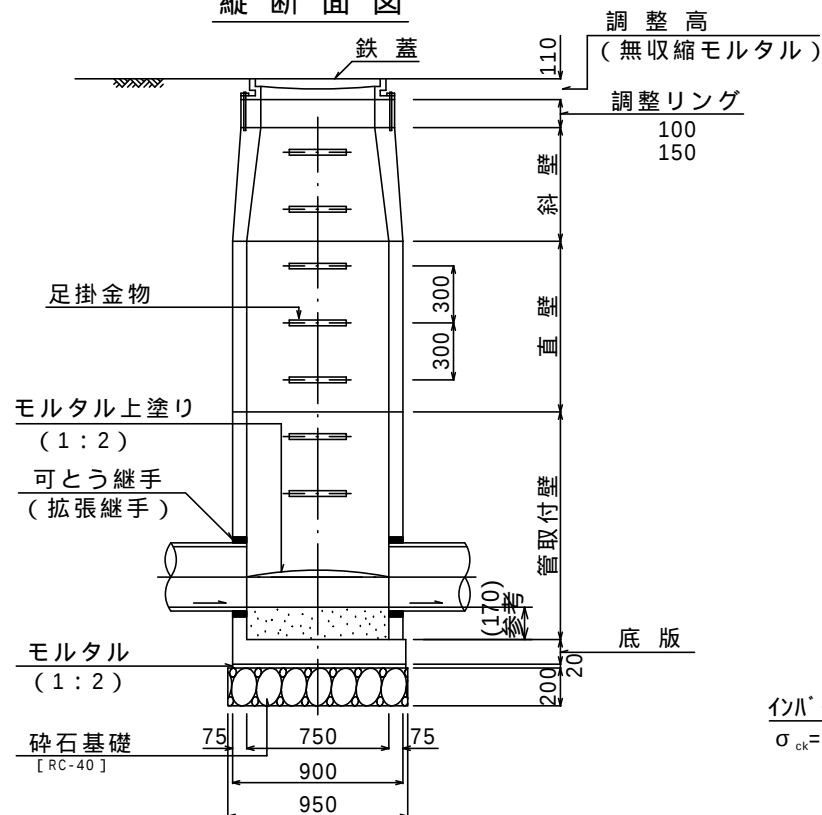
種別	番号
0号組立マンホール標準構造図	番号

0号組立マンホール標準構造図（参考）

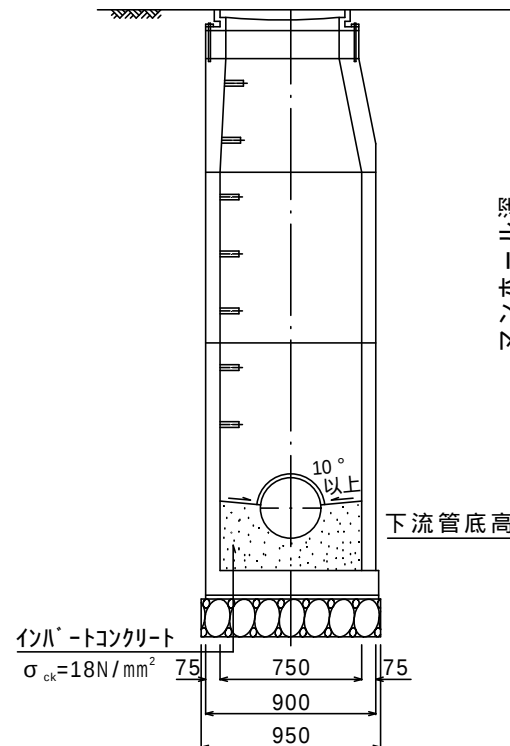
記号 ● 平面図



縦断面図

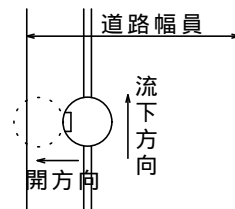
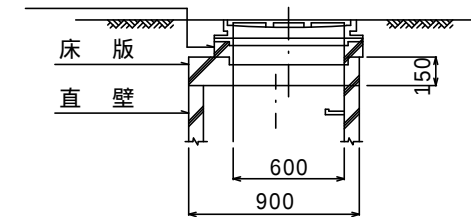


横断面図



床版ブロック使用の場合

(縦断面図)



(参考図)

マンホール材料費は市場単価に含まない。
足掛金物は維持管理を考慮した位置とするが、原則、蓋開時に交通障害を少なくし、安全に維持管理ができる位置とすること。
但し、現場により流入出管の位置、将来計画、人孔位置等種々の要因があるため、監督員と協議すること。

日本下水道協会規格 J S W A S 規格 A - 11
幹線管渠が20ha以上のマンホールについては、
防菌・抗菌を施すこと。(JSWAS規格外品)

足掛金物について

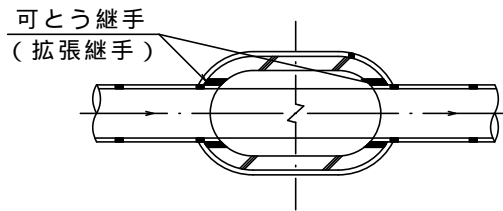
1. 芯材はJIS4303に該当すること。
2. 樹脂被覆されていること。
3. 反射板付とする。

東広島市公共下水道標準施工図

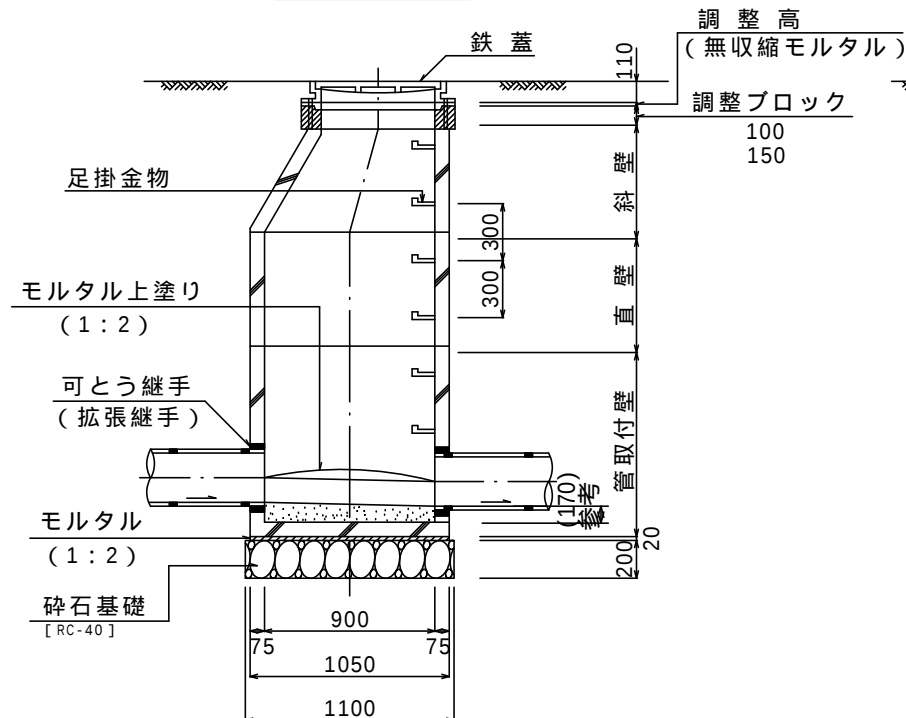
種別	楕円組立マンホール標準構造図	番号	/
----	----------------	----	---

楕円組立マンホール標準構造図（参考）

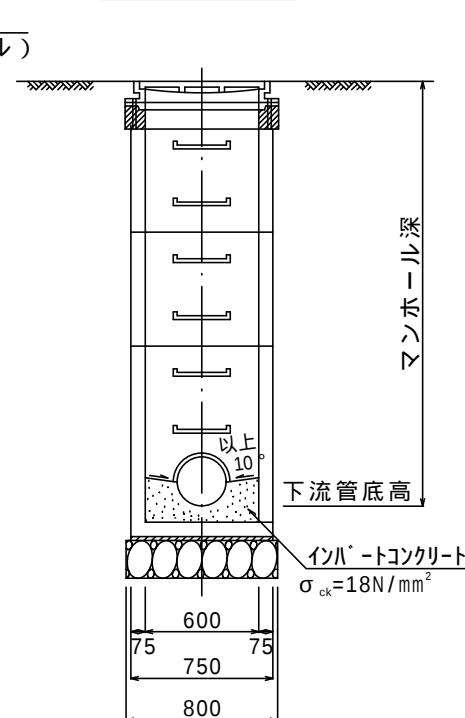
記号  平面図



縦断面図

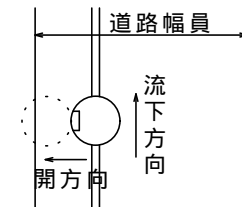
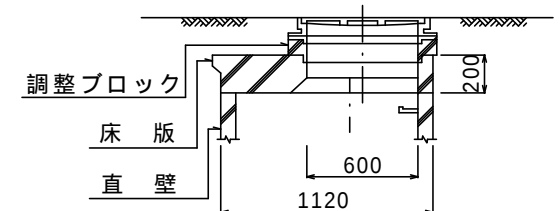


横断面図



床版ブロック使用の場合

（縦断面図）



（参考図）

マンホール材料費は市場単価に含まない。
足掛金物は維持管理を考慮した位置とするが、原則、蓋開時に交通障害を少なくし、安全に維持管理ができる位置とすること。
但し、現場により流入出管の位置、将来計画、人孔位置等種々の要因があるため、監督員と協議すること。

日本下水道協会規格 J S W A S 規格 A - 11
幹線管渠が20ha以上のマンホールについては、防菌・抗菌を施すこと。（JSWAS規格外品）

足掛金物について

1. 芯材はJIS4303に該当すること。
2. 樹脂被覆されていること。
3. 反射板付とする。

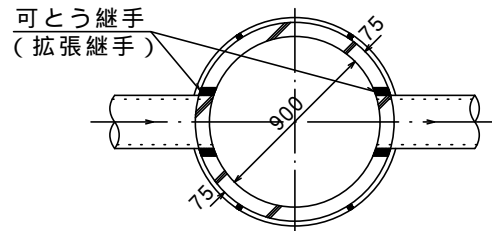
東広島市公共下水道標準施工図

種別	1号組立マンホール標準構造図	番号	／
----	----------------	----	---

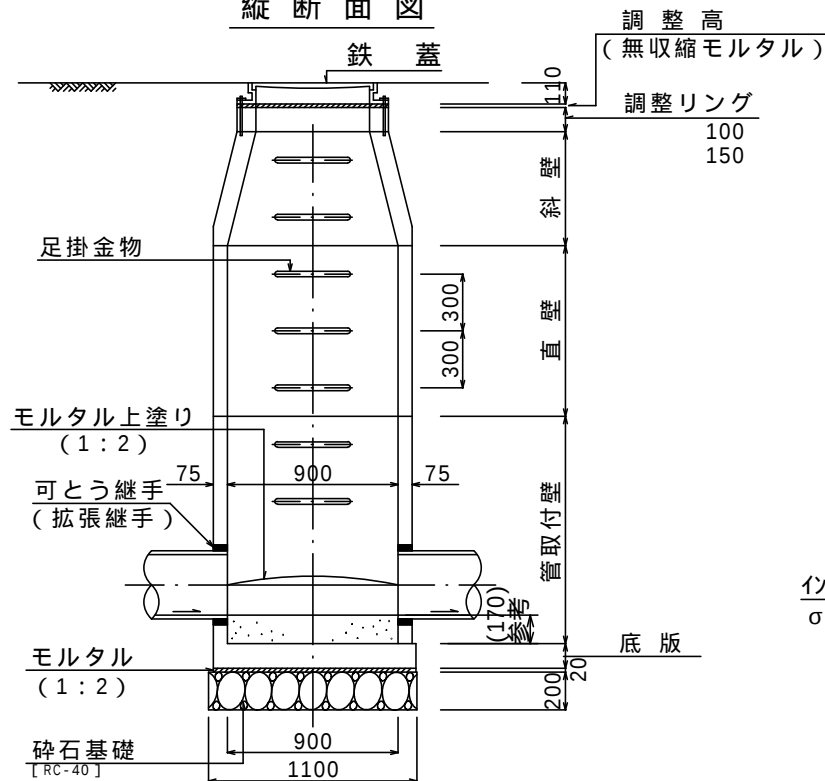
1号組立マンホール標準構造図（参考）

記号 ㊦

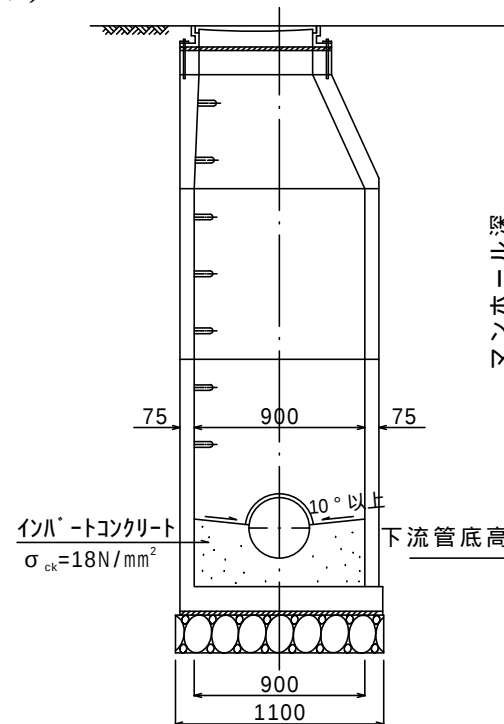
平面図



縦断面図

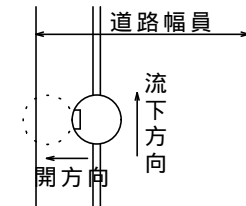
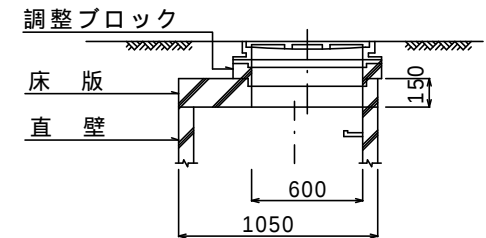


横断面図



床版ブロック使用の場合

（縦断面図）



（参考図）

マンホール材料費は市場単価に含まない。
足掛金物は維持管理を考慮した位置とするが、原則、蓋開時に交通障害を少なくし、安全に維持管理ができる位置とすること。
但し、現場により流入出管の位置、将来計画、人孔位置等種々の要因があるため、監督員と協議すること。

日本下水道協会規格 J S W A S 規格 A - 11
幹線管渠が20ha以上のマンホールについては、
防菌・抗菌を施すこと。（JWSAS規格外品）

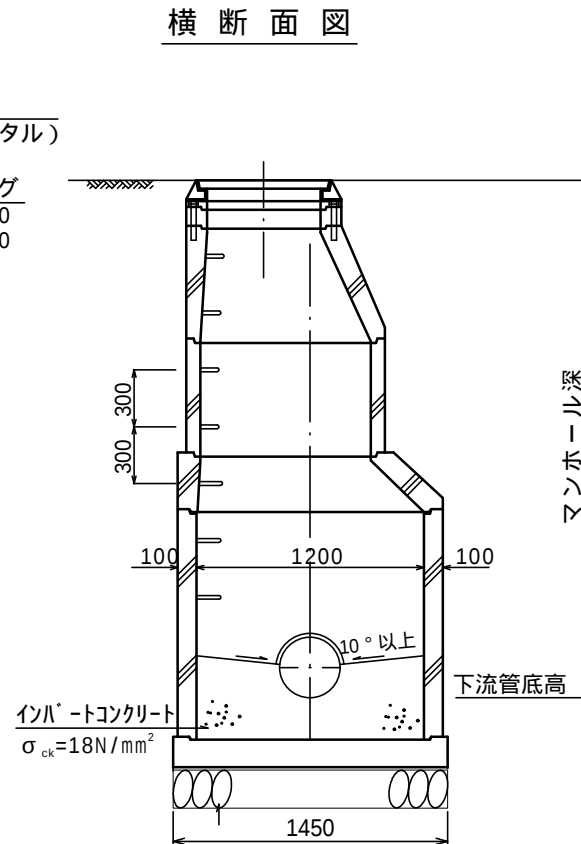
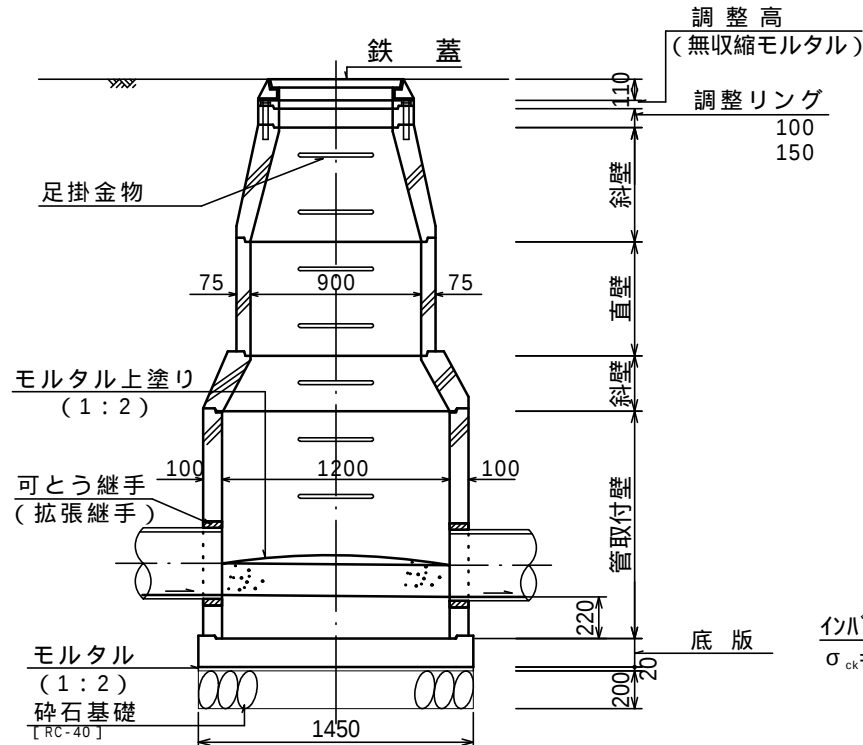
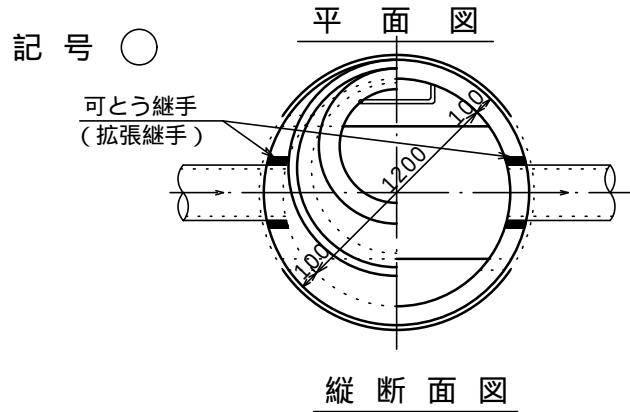
足掛金物について

- 1．芯材はJIS4303に該当すること。
- 2．樹脂被覆されていること。
- 3．反射板付とする。

東広島市公共下水道標準施工図

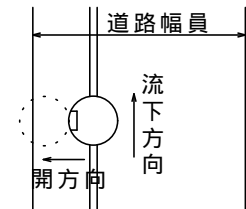
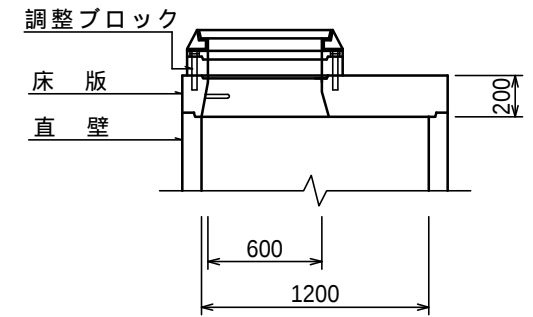
種別	2号組立マンホール標準構造図	番号	／
----	----------------	----	---

2号組立マンホール標準構造図(参考)



床版ブロック使用の場合

(縦断面図)



(参考図)

マンホール材料費は市場単価に含まない。
足掛金物は維持管理を考慮した位置とするが、原則、蓋開時に交通障害を少なくし、安全に維持管理ができる位置とすること。
但し、現場により流入出管の位置、将来計画、人孔位置等種々の要因があるため、監督員と協議すること。

日本下水道協会規格 J S W A S 規格 A - 11
幹線管渠が20ha以上のマンホールについては、防菌・抗菌を施すこと。(JSWAS規格外品)

足掛金物について

1. 芯材はJIS4303に該当すること。
2. 樹脂被覆されていること。
3. 反射板付とする。

東広島市公共下水道標準施工図

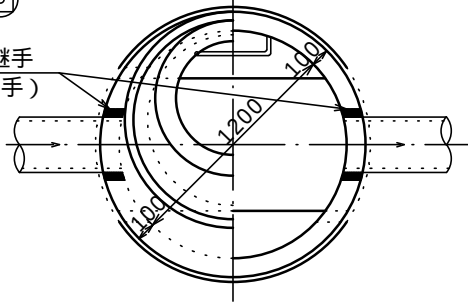
種別	3号組立マンホール標準構造図	番号	/
----	----------------	----	---

3号組立マンホール標準構造図(参考)

記号 ㊦

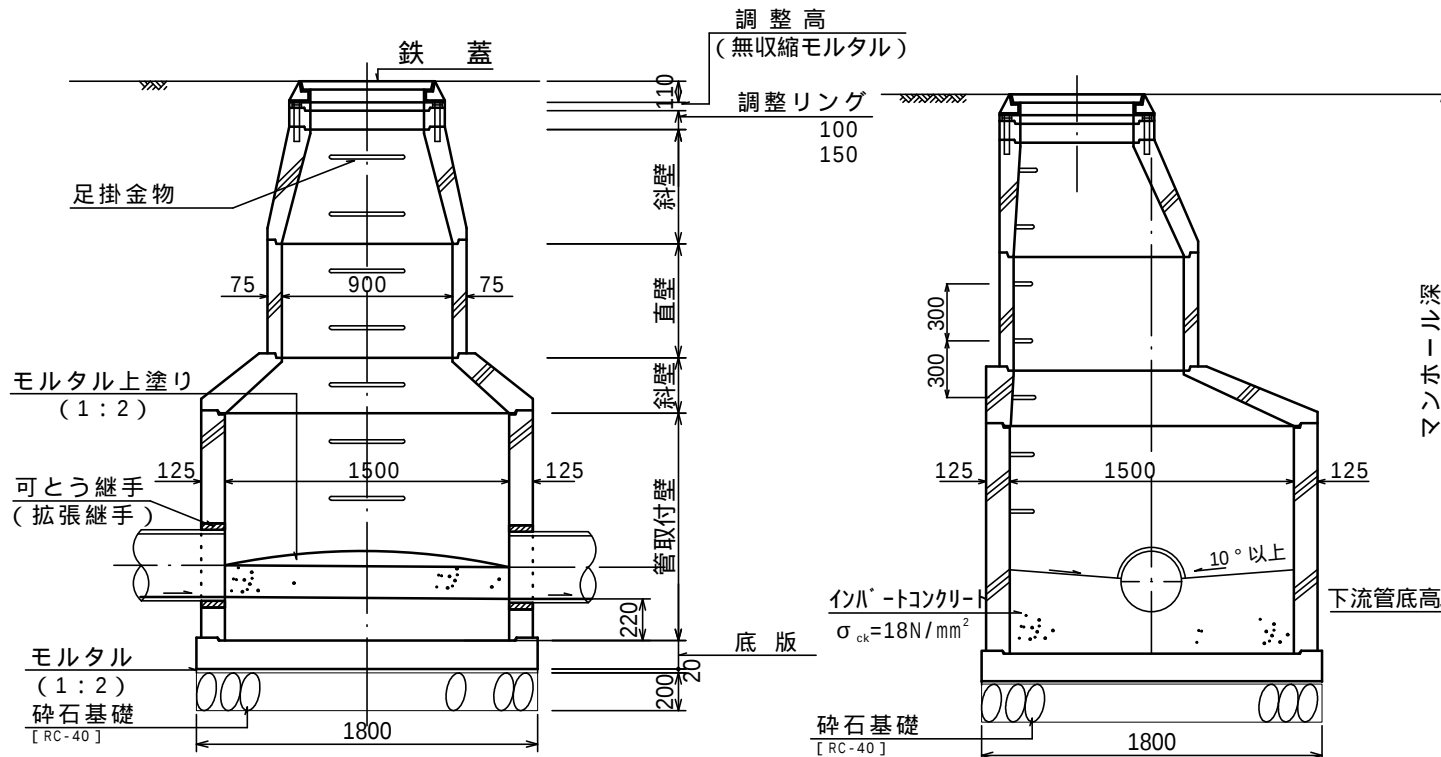
平面図

可とう継手
(拡張継手)



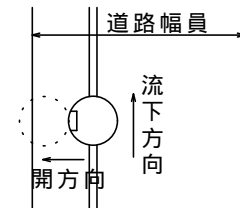
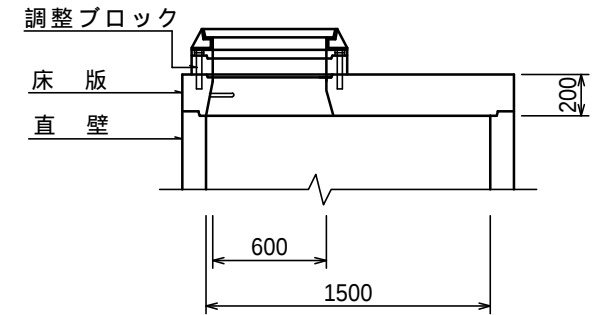
縦断面図

横断面図



床版ブロック使用の場合

(縦断面図)



(参考図)

マンホール材料費は市場単価に含まない。
足掛金物は維持管理を考慮した位置とするが、原則、蓋開時に交通障害を少なくし、安全に維持管理ができる位置とすること。
但し、現場により流入出管の位置、将来計画、人孔位置等種々の要因があるため、監督員と協議すること。

日本下水道協会規格J S W A S 規格 A - 11
幹線管渠が20ha以上のマンホールについては、防菌・抗菌を施すこと。(J S W A S規格外品)

足掛金物について

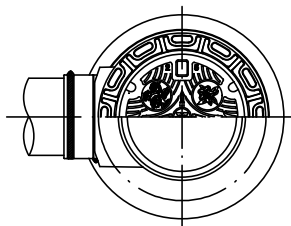
1. 芯材はJIS4303に該当すること。
2. 樹脂被覆されていること。
3. 反射板付とする。

種別	小型マンホール(レジン製)標準図	番号	／
----	------------------	----	---

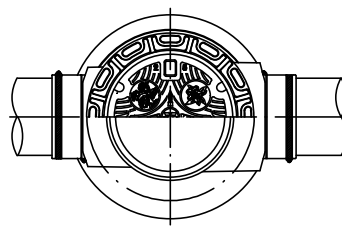
小型マンホール(レジン製)標準図

記号 ㊀

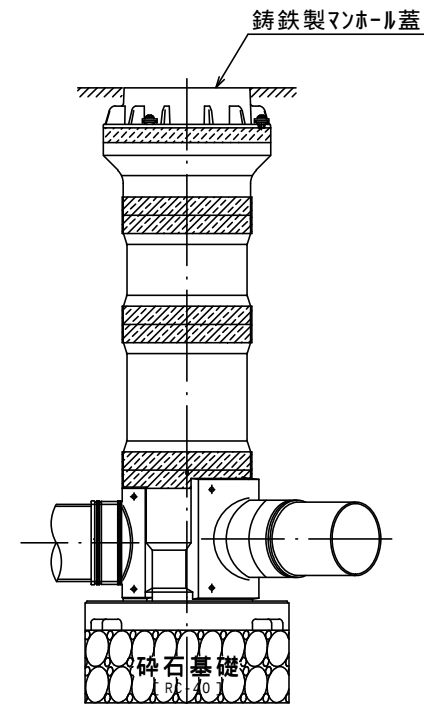
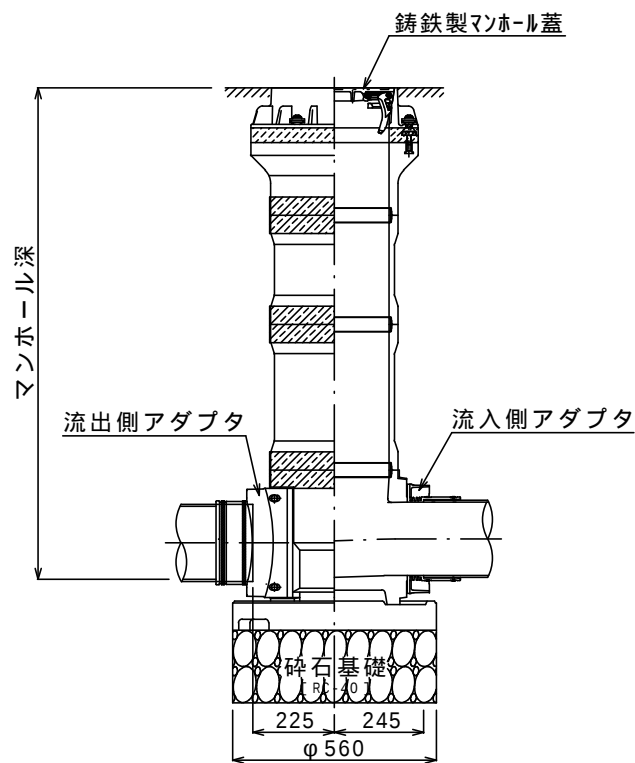
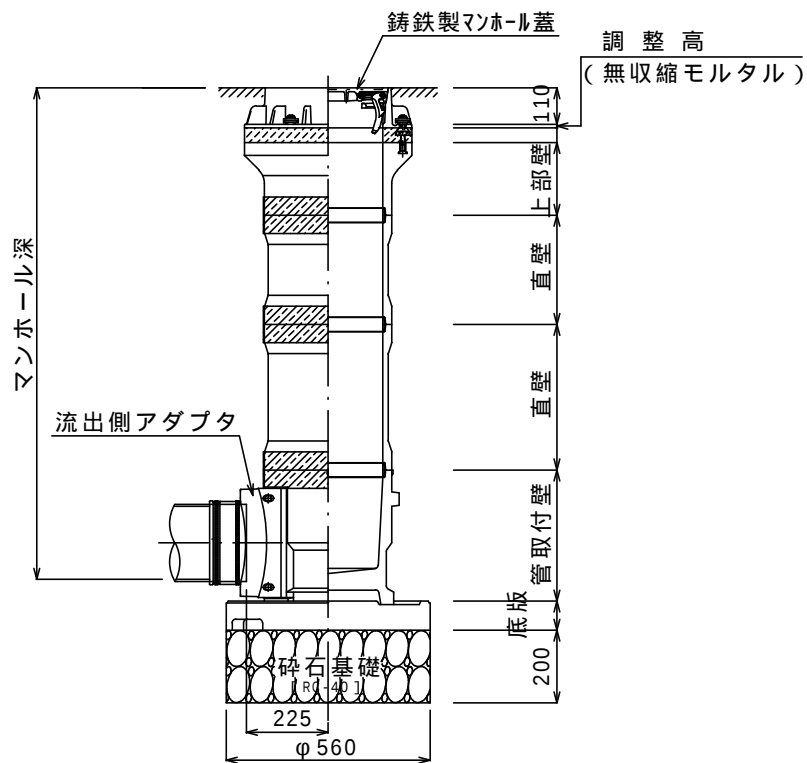
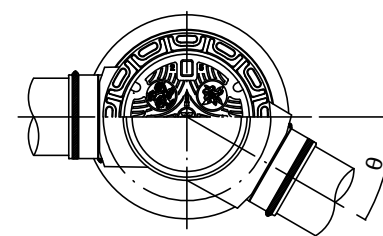
起 点



中間点



曲 点

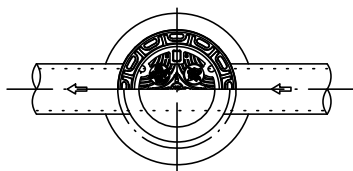


小型マンホール（コンクリート製）標準図

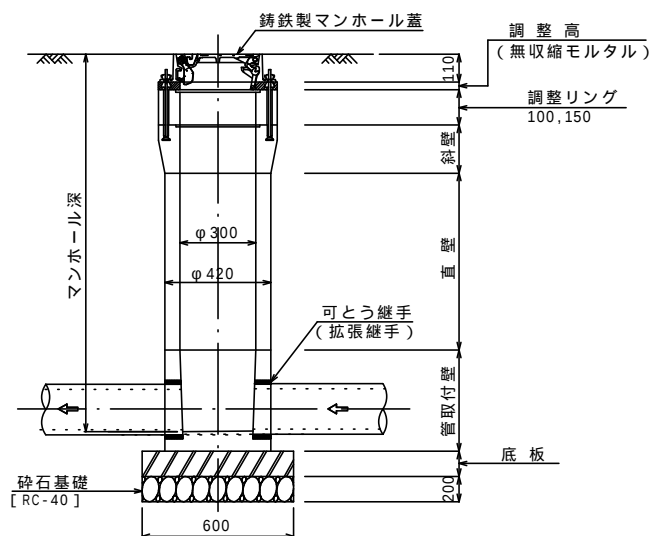
種別	小型マンホール(コンクリート製)標準図	番号	／
----	---------------------	----	---

記号 ㊀

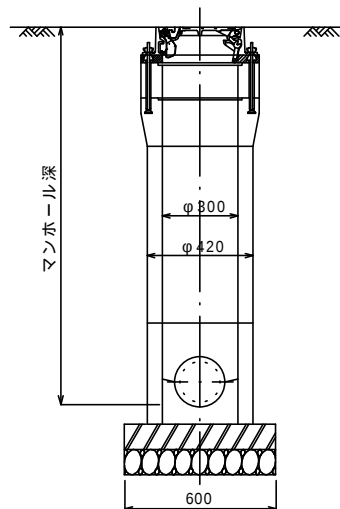
平面図



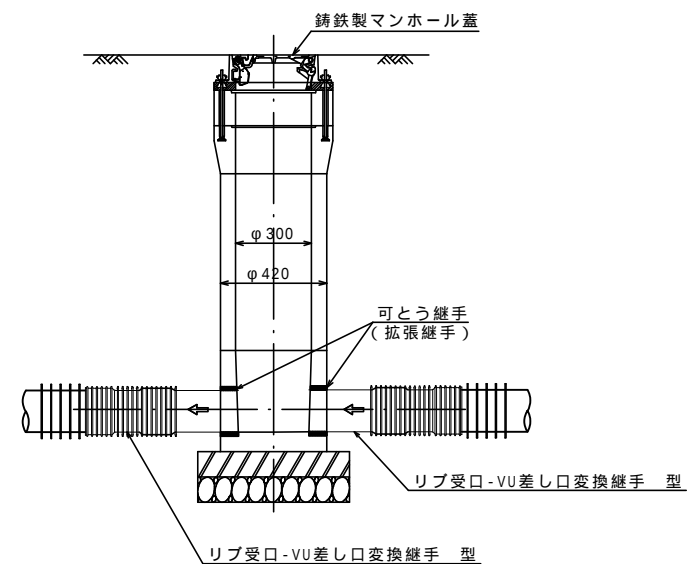
縦断面



横断面



リブ管接続時



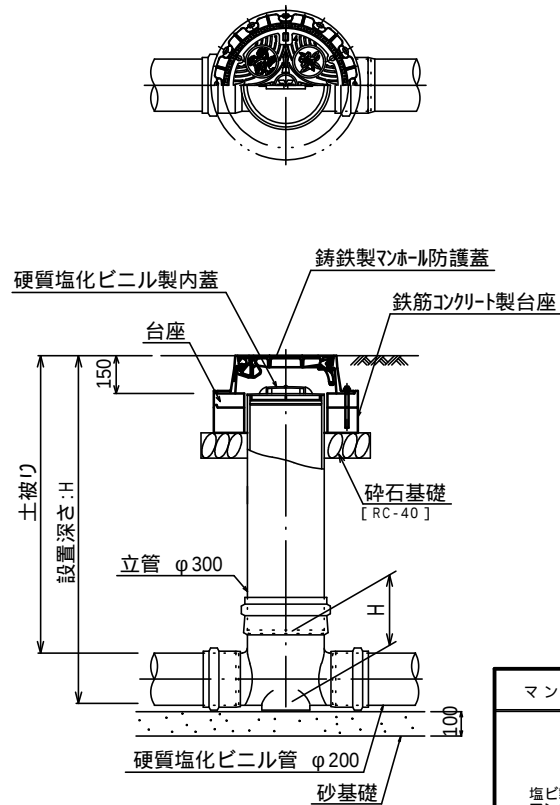
東広島市公共下水道標準施工図

小型マンホール（塩ビ製）標準図

種別	小型マンホール（塩ビ製）標準図 （ストレート・曲点・落差部）	番号	／
----	-----------------------------------	----	---

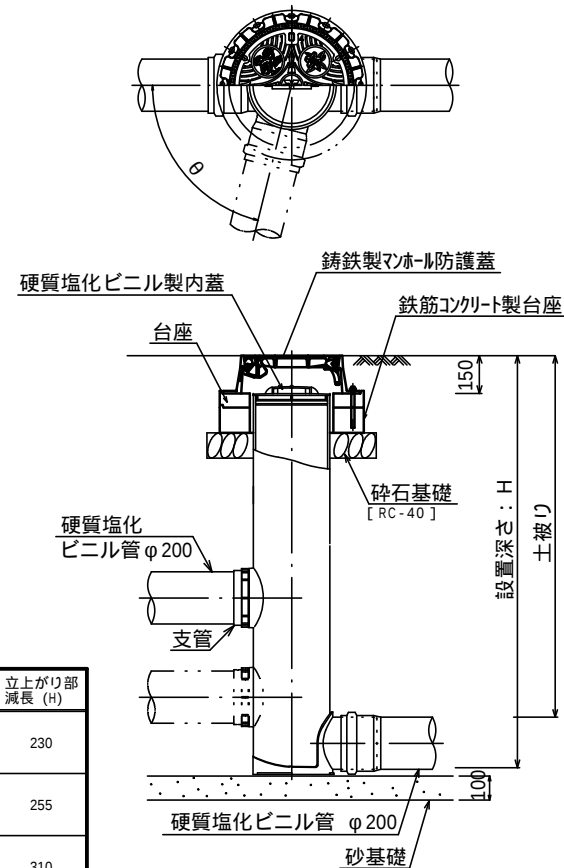
記号 ㊀

標準部



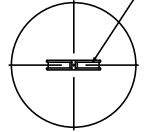
マンホール	管径	減長	立上がり部 減長 (H)
塩ビ製小型 マンホール	150 mm	下流側 0.30	230
		上流側 0.20	
	200 mm	下流側 0.30	255
		上流側 0.20	
	250 mm	下流側 0.35	310
		上流側 0.20	

落差部標準図



内蓋 φ300

把手部



本体 (CV-R)

パッキン
(合成ゴム)



立上り部は垂直に保つことを原則とする。

上・下流の勾配差が3°程度（52‰）まではゴム輪での調整が可能であるが、勾配差がこれ以上の場合は自在曲管の使用を認める。

落差部標準図は、1号、0号もしくは楕円マンホールが設置出来ない場合に使用する。

小型マンホール材料は市場単価に含む。

（落差部は、市場単価に含まない。）

铸铁製防護蓋を使用する場合は、設置費（手間費）、材料費を別途計上する。

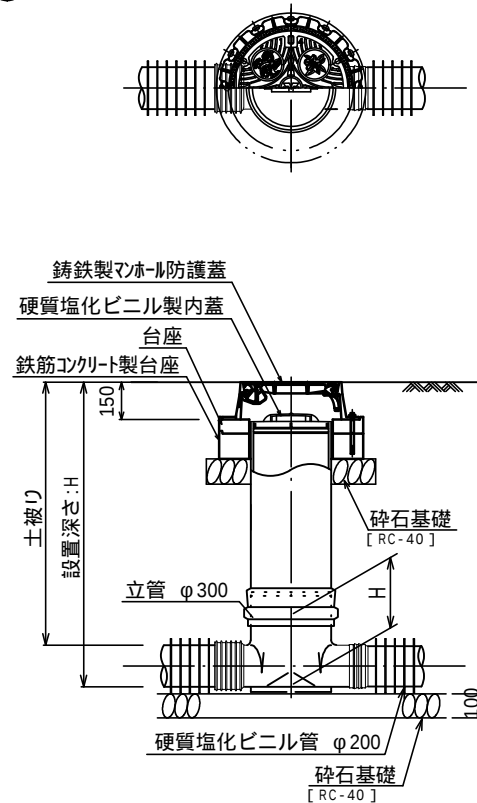
日本下水道協会規格 J S W A S 規格 K - 9

東広島市公共下水道標準施工図

種別	小型マンホール(塩ビ製)標準図 (ストレート・曲点・落差部)	番号	／
----	-----------------------------------	----	---

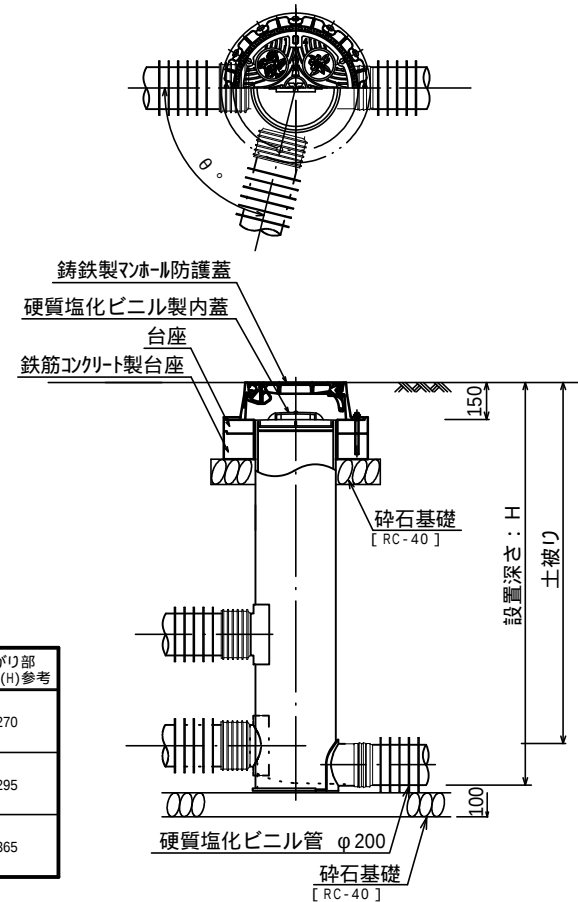
記号 ㊀

標準部



小型マンホール(リブ付塩ビ製)標準図

落差部標準図



内蓋 φ300

把手部

本体(CV-R)

パッキン
(合成ゴム)

マンホール	管径	減長	立上り部 減長(H)参考
リブ付き塩ビ製小型 マンホール	150 mm	下流側 0.30	270
		上流側 0.20	
	200 mm	下流側 0.30	295
		上流側 0.20	
	250 mm	下流側 0.35	365
		上流側 0.20	

落差部標準図は、1号、0号もしくは楕円マンホールが設置出来ない場合に使用する。

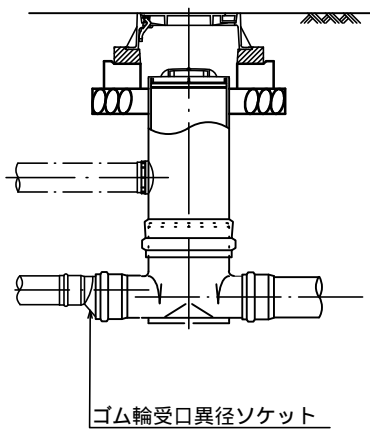
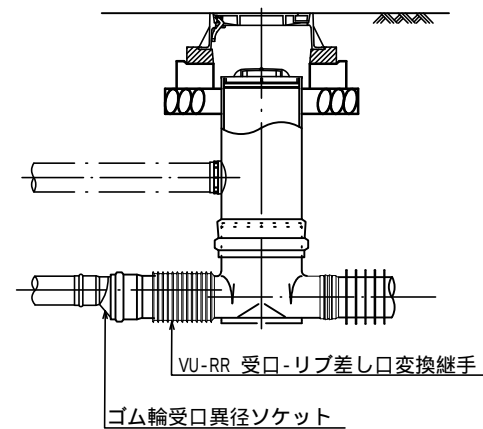
立上り部は垂直に保つことを原則とする。

小型マンホール材料は市場単価に含む。
(落差部は、市場単価に含まない。)
鋳鉄製防護蓋を使用する場合は、設置費(手間費)、
材料費を別途計上する。

日本下水道協会規格 J S W A S 規格 K - 17

東広島市公共下水道標準施工図

種別	小型マンホール（起点） 標準図（参考）	番号	／
----	------------------------	----	---

小型マンホール（起点）標準図（参考）塩ビ製小型マンホール取付管接続図リブ付塩ビ製小型マンホール取付管接続図

起点部に小型マンホールを設置する場合は、原則として落差インバートを使用しない。
 使用する場合は、協議を行うこと。

立上り部は垂直に保つことを原則とする。

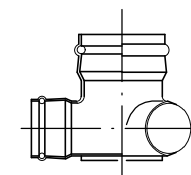
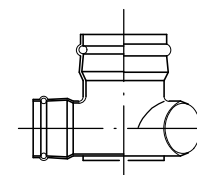
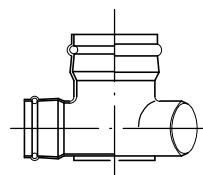
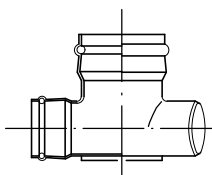
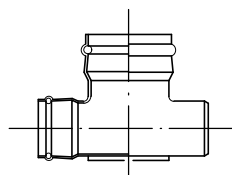
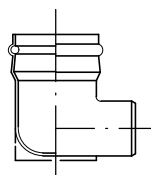
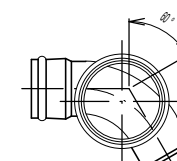
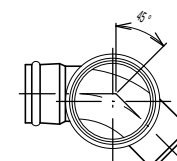
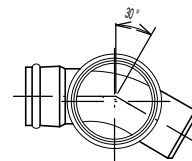
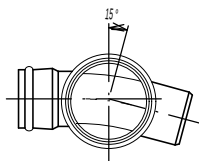
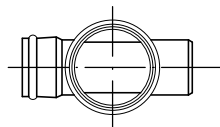
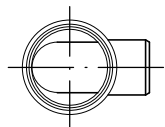
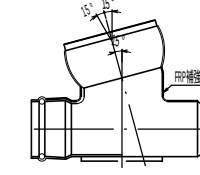
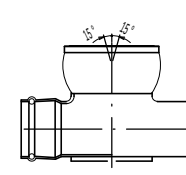
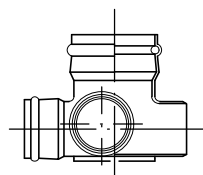
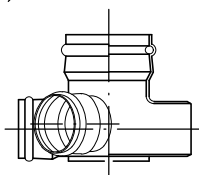
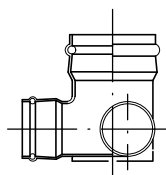
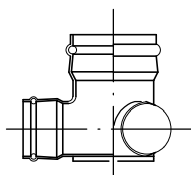
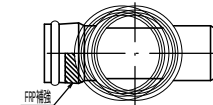
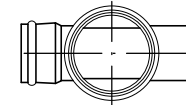
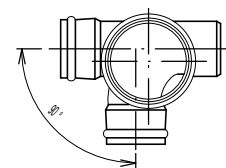
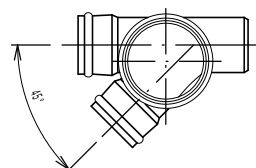
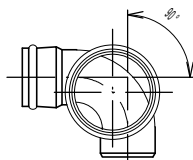
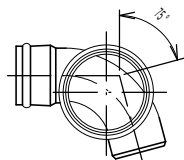
東広島市公共下水道標準施工図

種別	塩ビ製小型マンホール用インバート(参考)	番号	/
----	----------------------	----	---

塩ビ製小型マンホール用インバート(参考)

起点(略号 KT)

ストレート(略号 ST)

15度曲り「右,左」
(略号 15L右,15L左)30度曲り「右,左」
(略号 30L右,30L左)45度曲り「右,左」
(略号 45L右,45L左)60度曲り「右,左」
(略号 60L右,60L左)75度曲り「右,左」
(略号 75L右,75L左)90度曲り「右,左」
(略号 90L右,90L左)45度合流「右,左」
(略号 45Y右,45Y左)90度合流「右,左」
(略号 90Y右,90Y左)急傾斜地用
(略号 急傾斜タイプA)
管勾配5° ~ 15° 範囲
(87‰ ~ 268‰)急傾斜タイプB
(略号 急傾斜タイプB)
管勾配15° 以上
(268‰)

インバートは、「日本下水道協会規格」SWAS K-9」適合品またはリブ付小型マンホール(K-17)を使用する。なお、図は形状の細部を規定するものではない。立上り部は垂直に保つことを原則とする。

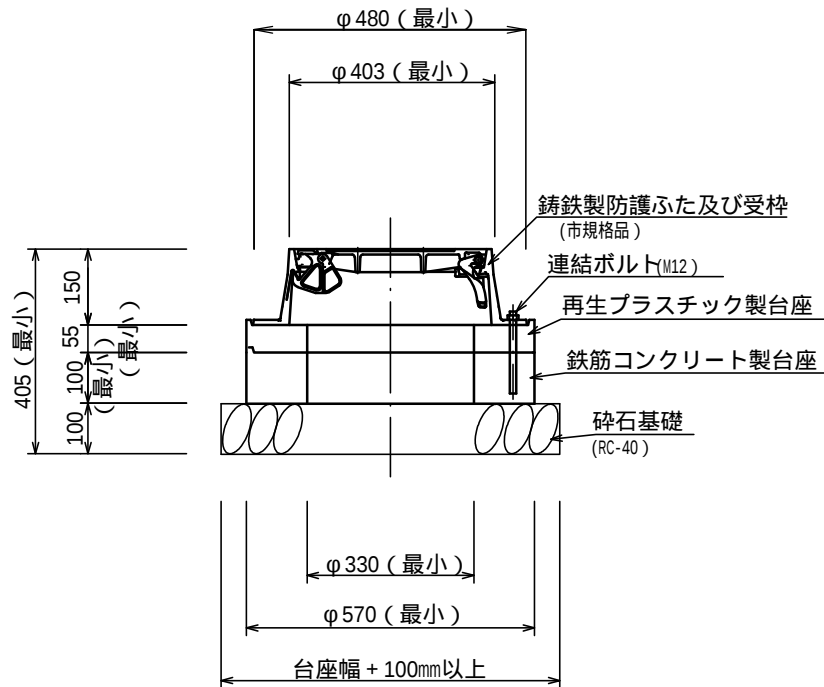
東広島市公共下水道標準施工図

種別	小型マンホール蓋 (塩ビ製, リブ付き塩ビ製用) 構造図: 参考	番号	/
----	--	----	---

小型マンホール蓋(塩ビ製, リブ付き塩ビ製用) 構造図 (参考)

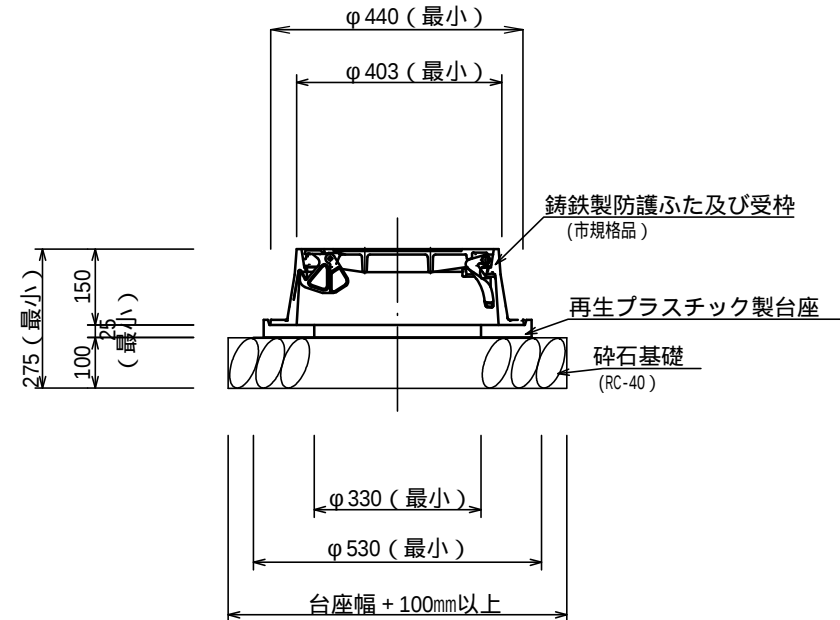
防護ふた構造図

(T-25, T-14)



防護ふた構造図

(T-8)



立上管と台座の間は、砕石等による間詰めを行なうこと

沈下防止用の四角台座(再生プラスチック製)を使用する場合は、鉄筋コンクリート台座を省略でき、その際の砕石基礎の厚さは30cmとする。

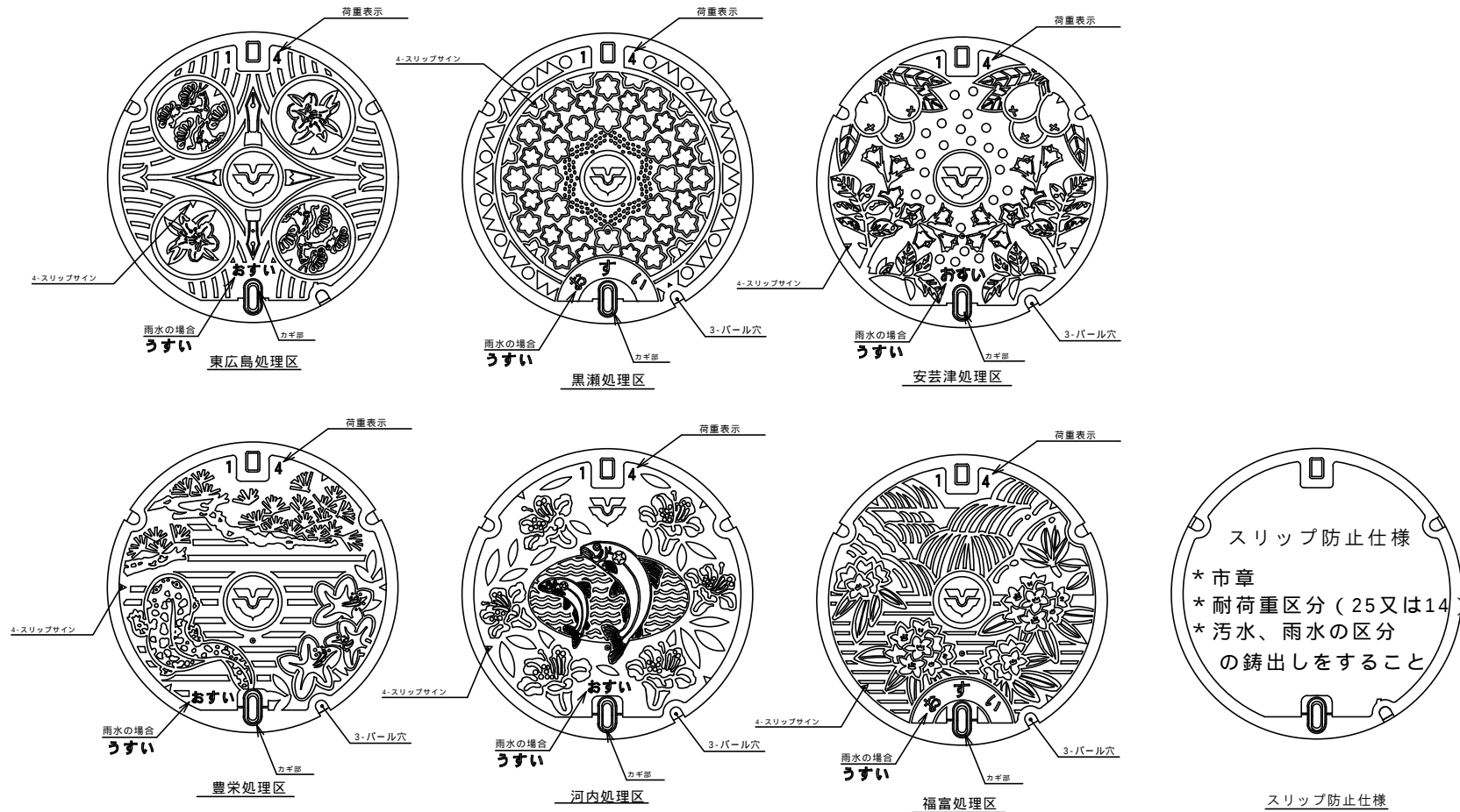
日本下水道協会規格 J S W A S 規格 G-3

東広島市公共下水道標準施工図

種別	東広島市型下水道用鋳鉄製マンホール蓋（参考図） 防水浮上防止型 ロック機能（・転落防止機能付）	番号	／
----	--	----	---

東広島市型下水道用鋳鉄製マンホール蓋（参考図）

防水浮上防止型 ロック機能（・転落防止機能付）



マンホール深2.0m以上の場合は転落防止梯子を設置すること

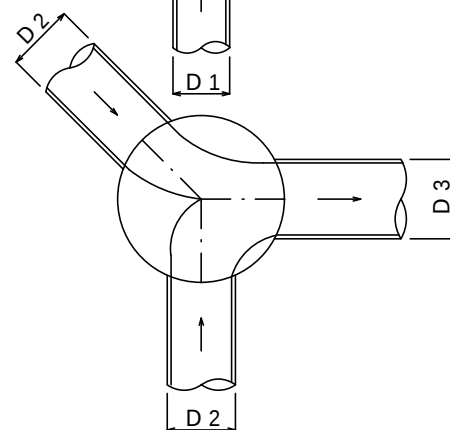
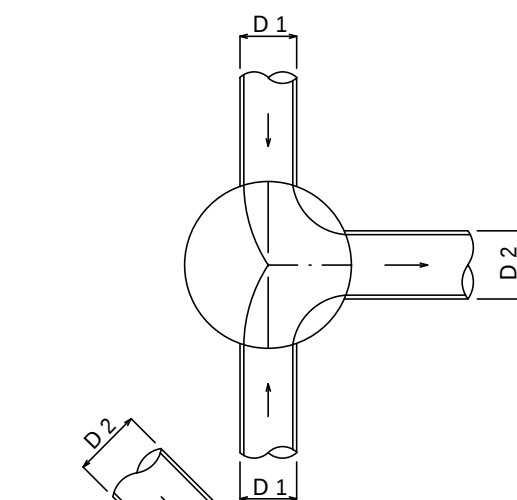
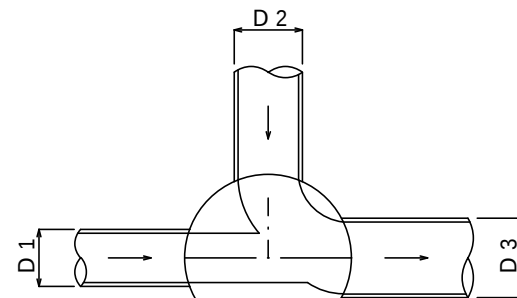
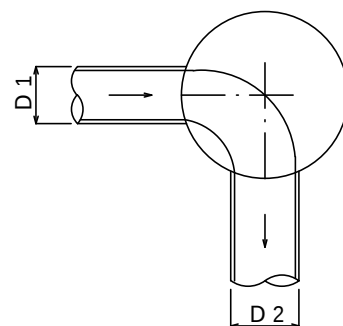
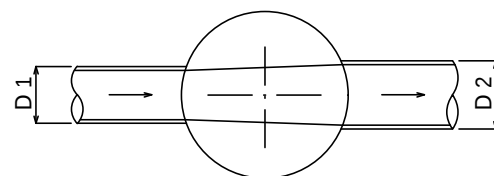
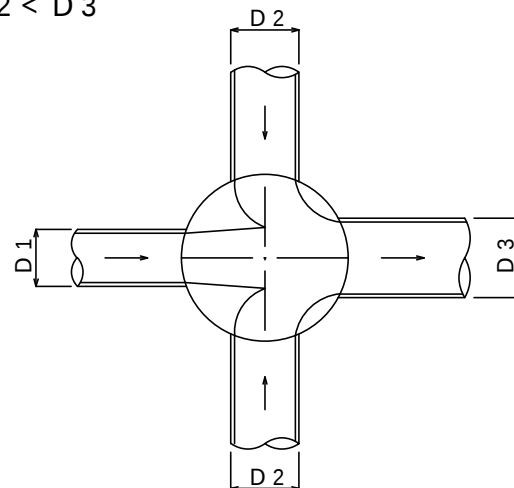
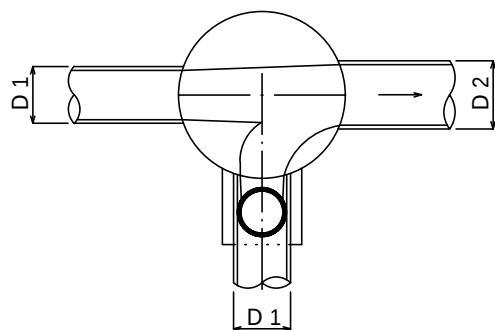
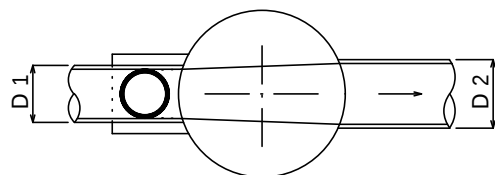
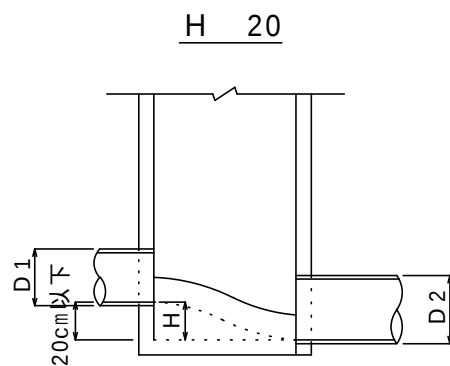
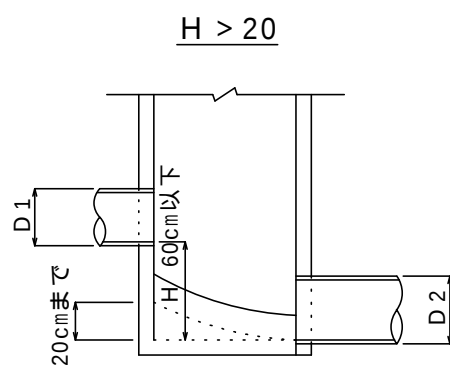
φ600、φ300は下水道協会規格JSWAS G-4

φ300（防護蓋）は下水道協会規格JSWAS G-3

種別	各種インバート図	番号	／
----	----------	----	---

各種インバート図

$D1 < D2 < D3$



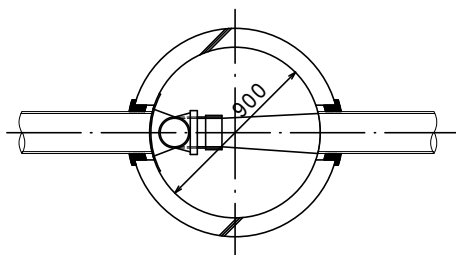
東広島市公共下水道標準施工図

種 別	副管構造図 (内副管の場合)	番 号	/
--------	-------------------	--------	---

副 管 構 造 図

(内副管の場合)

平 面 図



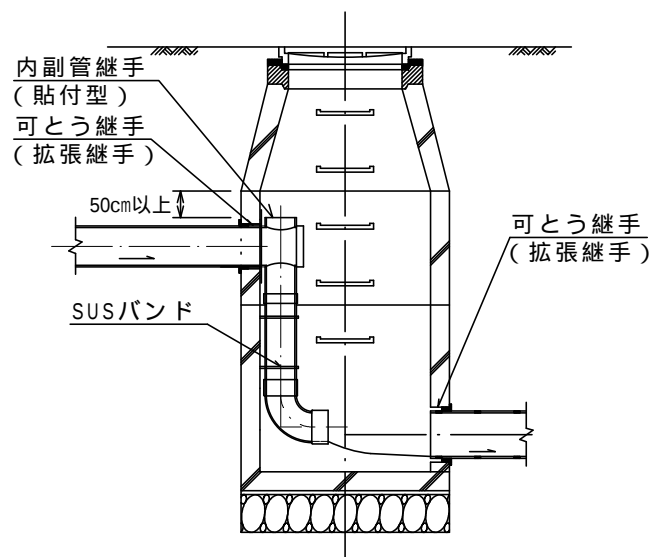
SUSバンド設置について
 副管段差h 1.0 2箇所以上設置すること
 h > 1.0 1m間隔以内に設置すること

副 管 径

本管径 (mm)	副管径 (汚水)	適用範囲
150	100	○
200	150	
250	200	
300	200	別途検討
350	200	
400	200	
450	250	

縦 断 面 図 (一般部)

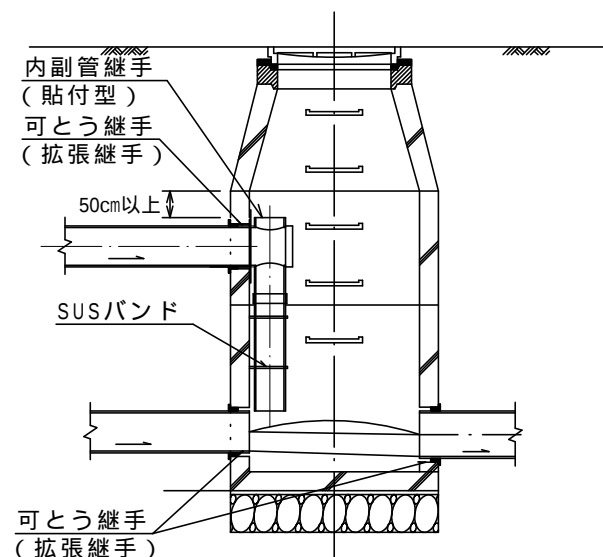
貼付型の場合



副管流出高は、下流側流出管の管頂接合とする。

縦 断 面 図 (推進部)

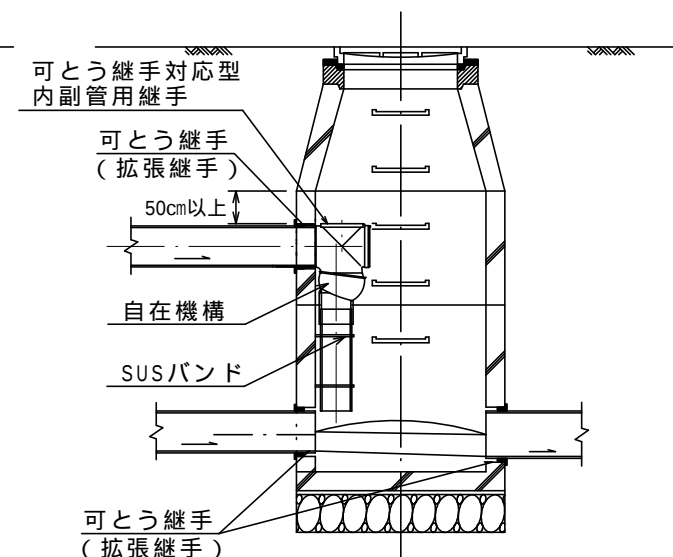
貼付型の場合



内副管継手と斜壁ブロックまたは床版ブロックとの離隔を50cm以上確保する。

縦 断 面 図 (推進部)

貼付型を使用しない場合



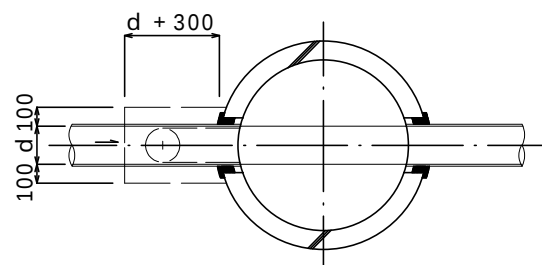
東広島市公共下水道標準施工図

種 別	副管構造図 (外副管の場合)	番 号	/
--------	-------------------	--------	---

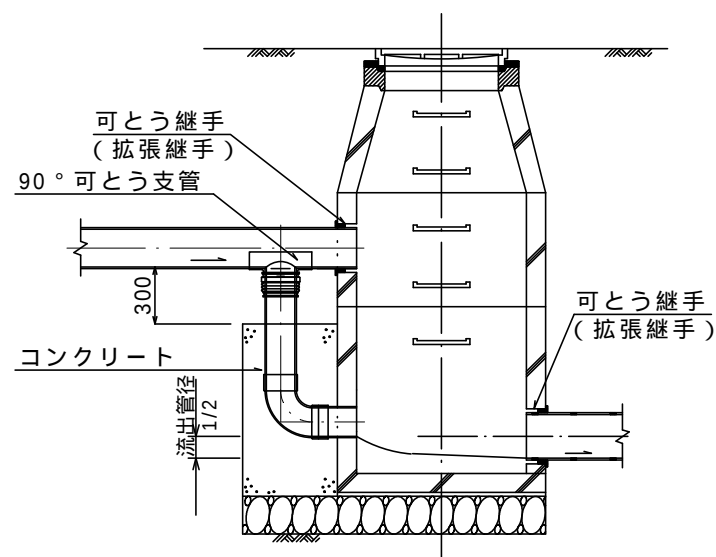
副 管 構 造 図

(外副管の場合)

平 面 図



縦 断 面 図 (一般部)



立坑内設置でモルタル等により埋戻す場合、可とう部に緩衝材を設置すること。

副 管 径

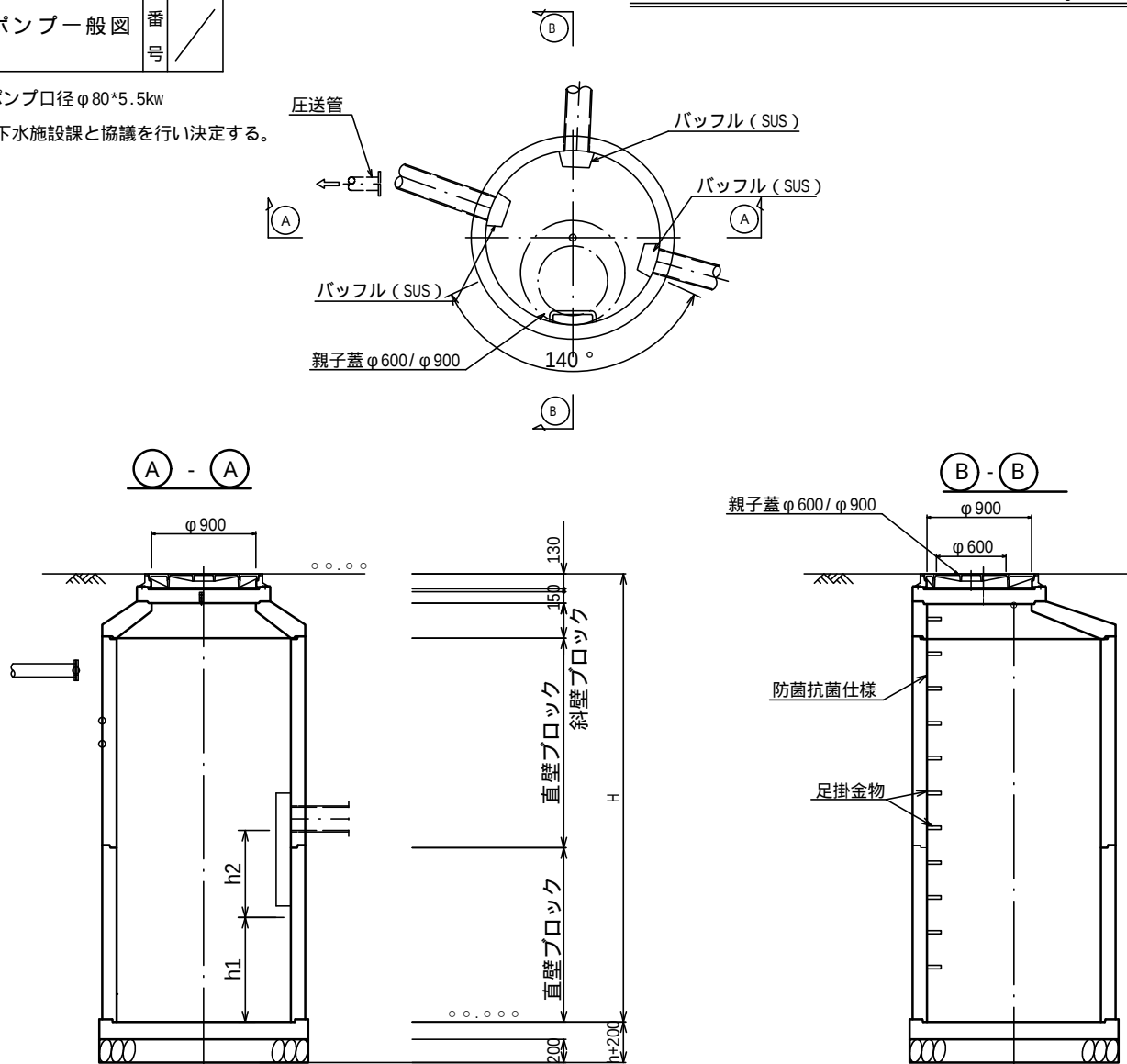
本管径 (mm)	副管径 (汚水)	適用範囲
150	100	○
200	150	
250	200	
300	200	別途検討
350	200	
400	200	
450	250	

東広島市公共下水道標準施工図

種別	マンホールポンプ一般図 (参考図)	番号	／
----	----------------------	----	---

例) 圧送管φ100, ポンプ口径φ80*5.5kw
の時の図面を示す。
制御盤の位置等は、下水施設課と協議を行い決定する。

マンホールポンプ一般図 (参考図)



ポンプ口径及び組立式マンホールの組合せ

組立式マンホールの種類 蓋の種類	1号 φ 600	2号 φ 600/900	3号 φ 600/900	4号 φ 600/1200
ポンプ口径				
50	○			
65		○		
80			○	
100			○	
150				○

組立式マンホールの種類	1号	2号	3号	4号
h1 (mm)	700	750	900	1,250
h2 (mm)	500	700	750	800

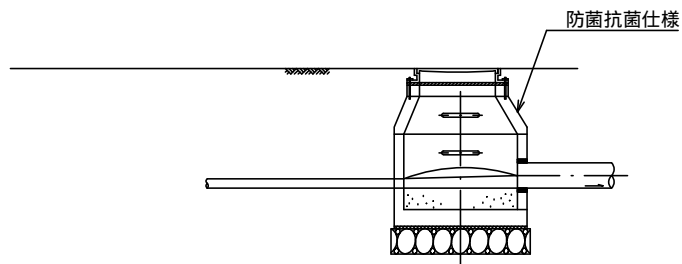
ポンプ機械によっては、上記表以外の数値となる場合があるので
数値については参考値とする。

圧送管接続方法

標準的な圧送管接続人孔

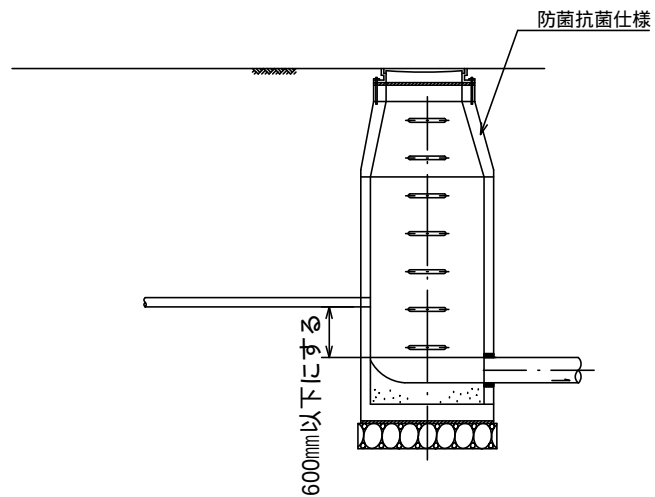
CASE. 1

下流管底に圧送管の管底を合わせる。

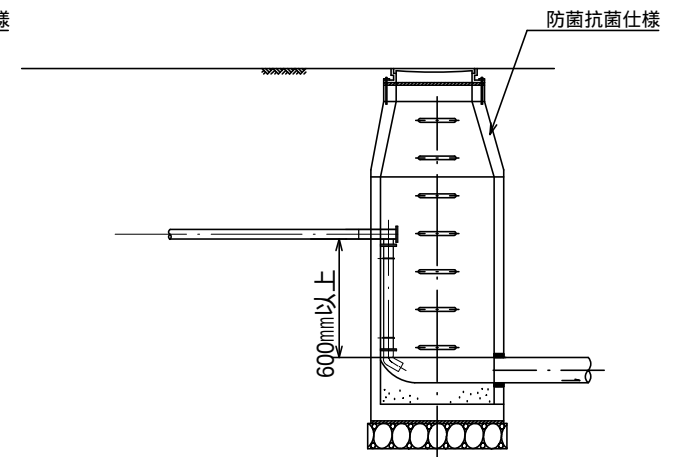


CASE. 2

圧送管と自然流下管に落差が生じる場合



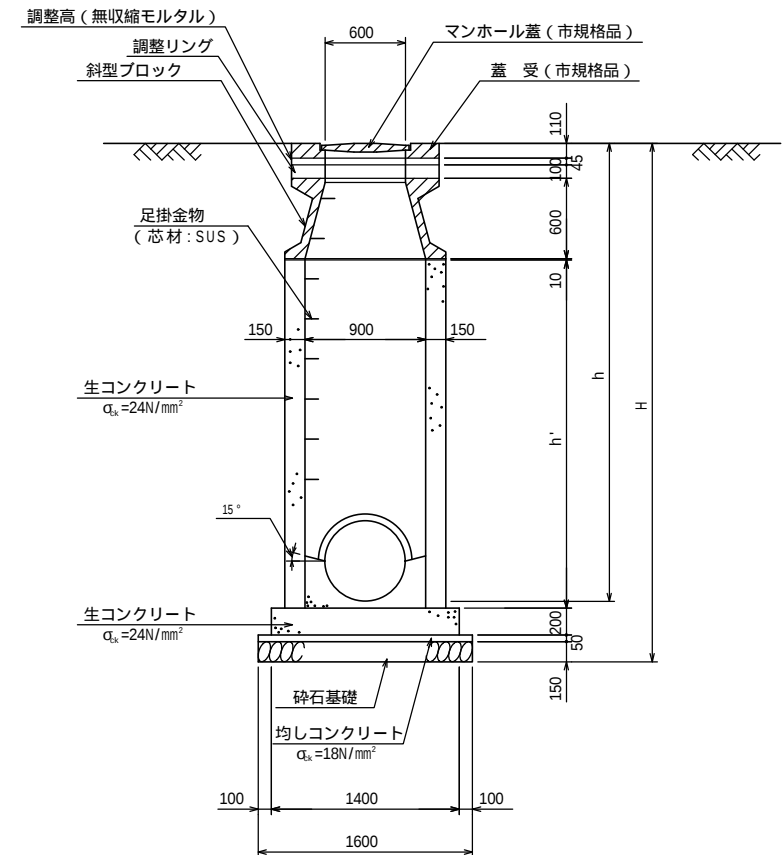
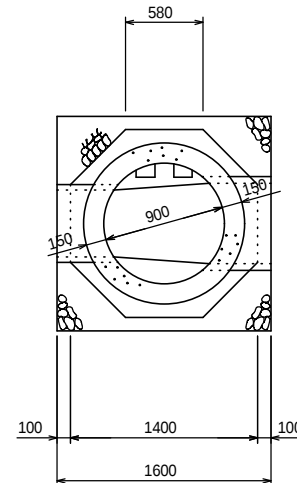
圧送管と自然流下管に落差が生じる場合



段差がある場合は、下流のマンホールも防菌抗菌仕様とする
必要があるので検討を行うこと。

(内径900耗円形):参考

1. 斜壁ブロックについて
組立用の斜壁ブロックを用いる場合は、連結直壁を設置すること。
2. 足掛金物の幅について
足掛金物の幅は150mmもしくは300～400mmを使用する。
3. 足掛金物の配置について
足掛金物の幅150mmを使用の場合は千鳥配置とし、幅300mm～400mmを配置する場合は、ストリートに配置する。



1. 芯材はJIS4303に該当すること。
2. 樹脂被覆されていること。
3. 反射板付とする。

雨水の場合は泥溜30cmを確保すること

東広島市公共下水道標準施工図

種別

1号マンホール配筋図
(現場打): 参考

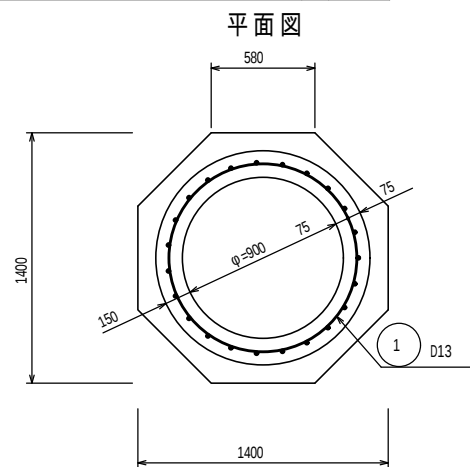
番号

1号マンホール配筋図

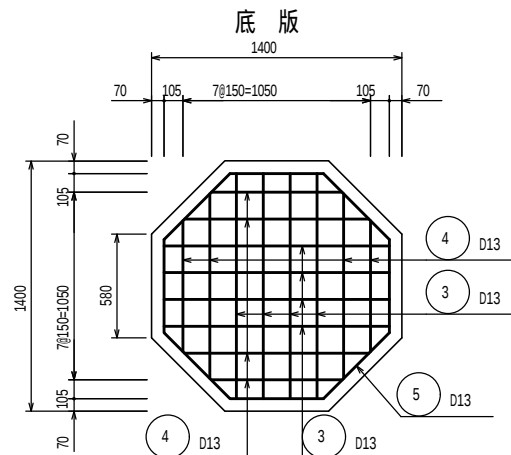
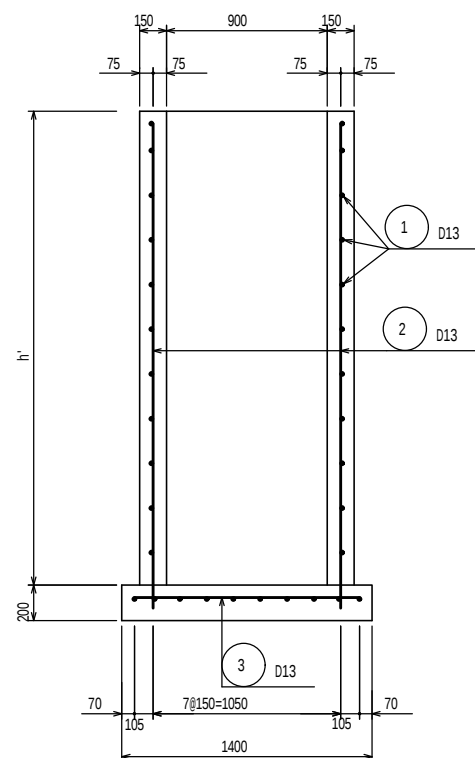
(内径900円形): 参考

配筋ピッチ及び鉄筋径については、土木構造物設計ガイドラインに沿って決定すること。

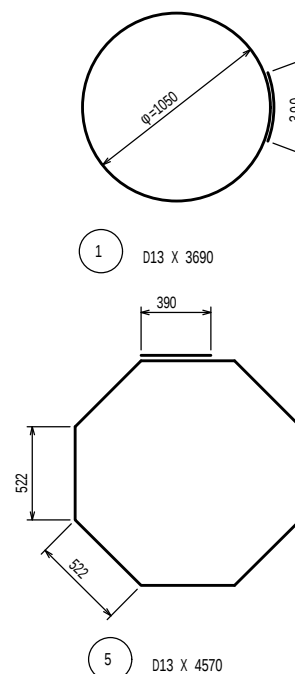
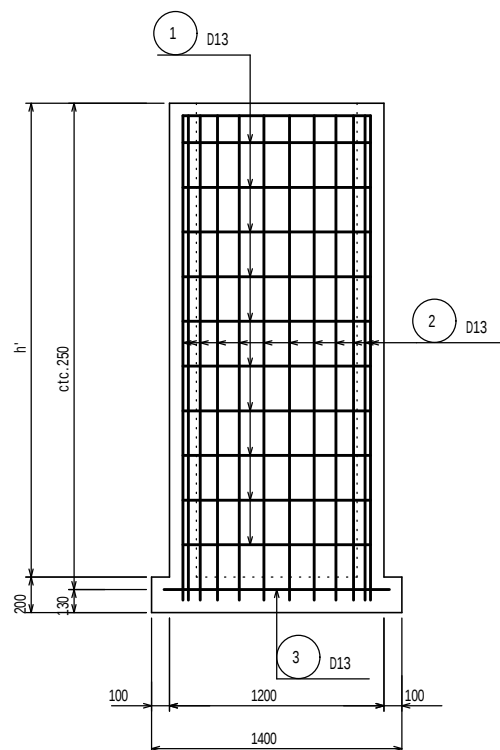
鉄筋加工図



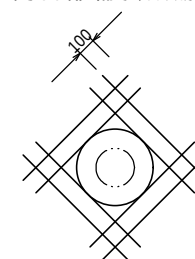
断面図



側壁



開口部補強鉄筋



鉄筋表 SD345

記号	径	長さ (m)	本数	単位重量	1本当り重量 (kg)	重量	摘要
1	D13	3.690	$h' / 0.250$	0.995	3.672	14.688h'	
2	"	$h' + 0.060$	23	0.995	0.995(h' + 0.060)	22.885h' + 1.373	150ピッチ
3	"	1.260	8	0.995	1.254	10.032	
4	"	0.890	8	0.995	0.886	7.088	
5	"	4.570	1	0.995	4.547	4.547	
D13 37.853h' + 23.040							

東広島市公共下水道標準施工図		
種別	2号マンホール構造図 (現場打)：参考	番号

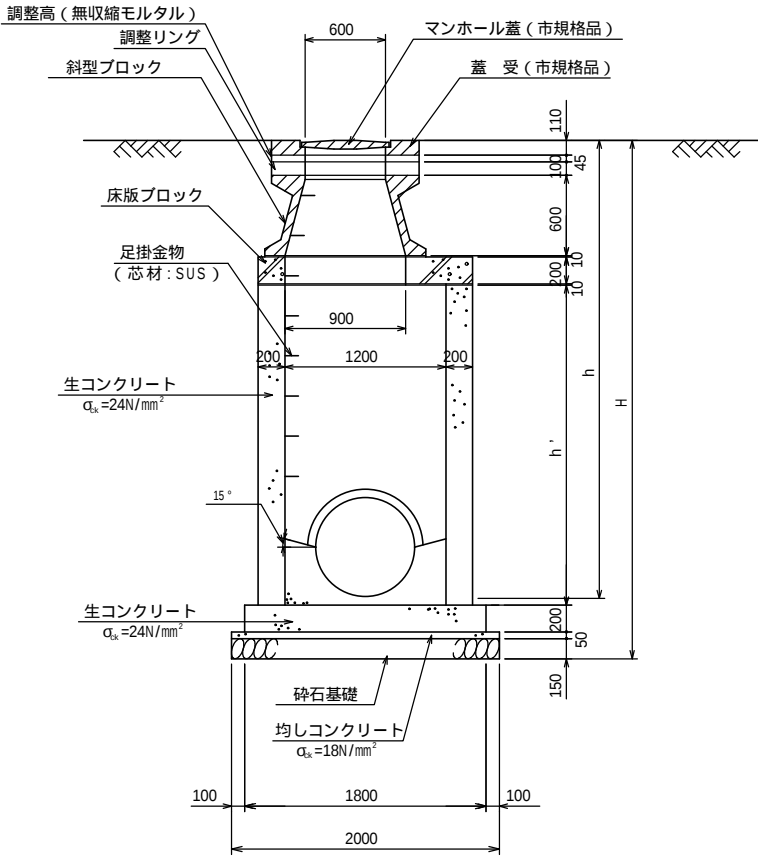
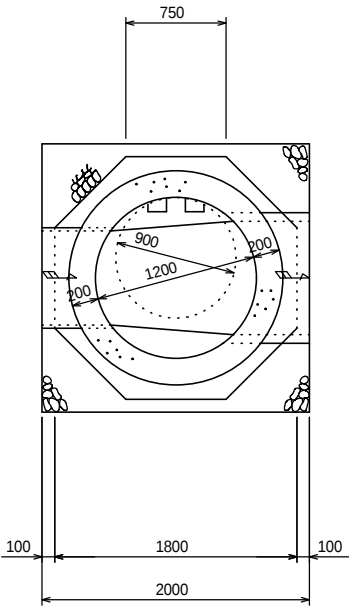
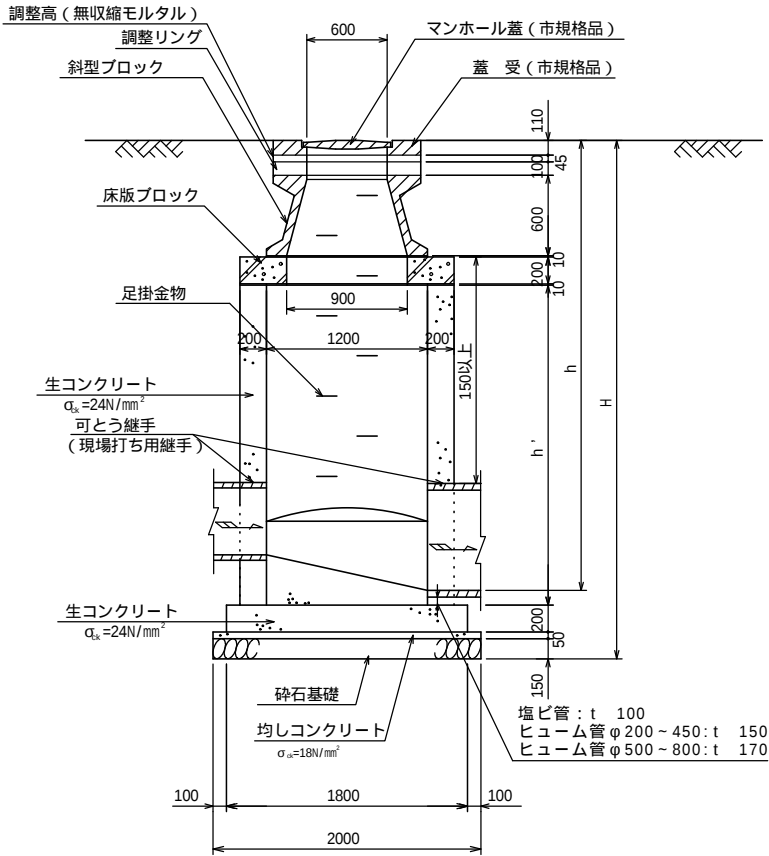
2号マンホール構造図

(内径1200耗円形)：参考

h	床版	側壁	底版	均しコンクリート
5.0m未満	鉄筋(D13)	無筋	鉄筋(D13)	有り

適用範囲はh = 5 m未満とする。

1. 斜壁ブロックについて
組立用の斜壁ブロックを用いる場合は、連結直壁を設置すること。
2. 足掛金物の幅について
足掛金物の幅は150mmもしくは300～400mmを使用する。
3. 足掛金物の配置について
足掛金物の幅150mmを使用する場合は千鳥配置とし、幅300mm～400mmを配置する場合は、ストレートに配置する。



足掛金物について

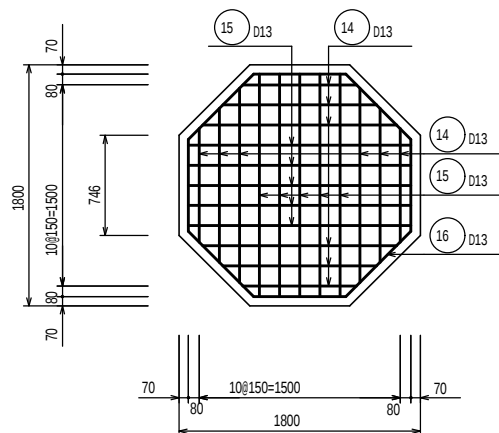
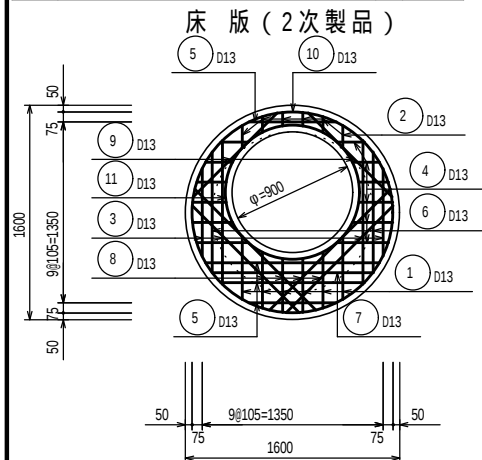
1. 芯材はJIS4303に該当すること。
2. 樹脂被覆されていること。
3. 反射板付とする。

雨水の場合は泥溜 30 cmを確保すること

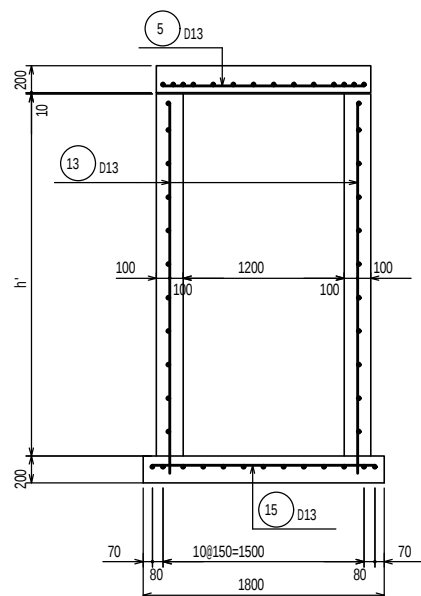
東広島市公共下水道標準施工図

種別	2号マンホール配筋図 (現場打): 参考	番号	/
----	-------------------------	----	---

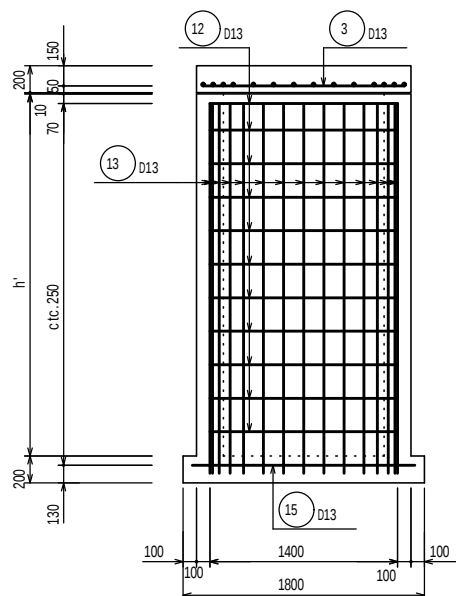
2号マンホール配筋図

(内径1200耗円形): 参考
底版

断面図



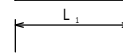
側壁



配筋ピッチ及び鉄筋径については、土木構造物設計ガイドラインに沿って決定すること。

鉄筋加工図

記号	L ₁	本数
① -1	469	2
① -2	419	2
① -3	402	2
平均長	430	6



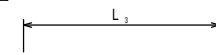
① D13 X 430

記号	L ₁	本数
② -1	169	2
② -2	119	2
② -3	102	2
平均長	130	6



② D13 X 130

記号	L ₁	本数
③ -1	634	2
③ -2	1071	2
平均長	863	4

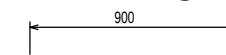


③ D13 X 870

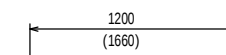
記号	L ₁	本数
④ -1	205	2
④ -2	203	2
④ -3	221	2
④ -4	252	2
④ -5	300	2
④ -6	385	2
平均長	261	12



④ D13 X 270

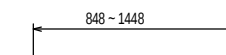


⑤ D13 X 900



⑥ D13 X 1200

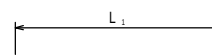
(⑬ D13 X 1660)



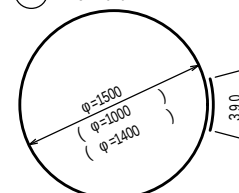
⑦ D13 X 1150

鉄筋表 SD345

記号	径	長さ(m)	本数	単位重量	1本当り重量(kg)	重量	摘要
①	D13	0.430	6	0.995	0.428	2.568	2次製品
②	"	0.130	6	"	0.129	0.774	"
③	"	0.870	4	"	0.866	3.464	"
④	"	0.270	12	"	0.269	3.228	"
⑤	"	0.920	4	"	0.915	3.660	"
⑥	"	0.900	2	"	0.896	1.792	"
⑦	"	1.200	1	"	1.194	1.194	"
⑧	"	1.190	4	"	1.184	4.736	"
⑨	"	0.860	2	"	0.856	1.712	"
⑩	"	5.110	1	"	5.084	5.084	"
⑪	"	3.540	1	"	3.522	3.522	"
床版ブロック(市規格品)						D13 31.734	
⑫	D13	4.790	h' / 0.250	0.995	4.766	19.064h'	
⑬	"	h' + 0.060	29	"	0.995(h' + 0.060)	28.855h' + 1.731	150ピッチ
⑭	"	1.150	12	"	1.144	13.728	
⑮	"	1.660	10	"	1.652	16.520	
⑯	"	3.150	2	"	3.134	6.268	
						D13 47.919h' + 38.247	



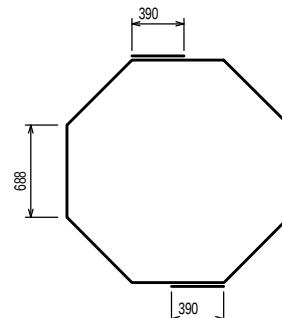
⑤ D13 X 920



⑩ D13 X 5110

(⑪ D13 X 3540)

(⑫ D13 X 4790)



⑯ D13 X 3150

東広島市公共下水道標準施工図			
種別	3号マンホール構造図 (現場打) : 参考	番号	／

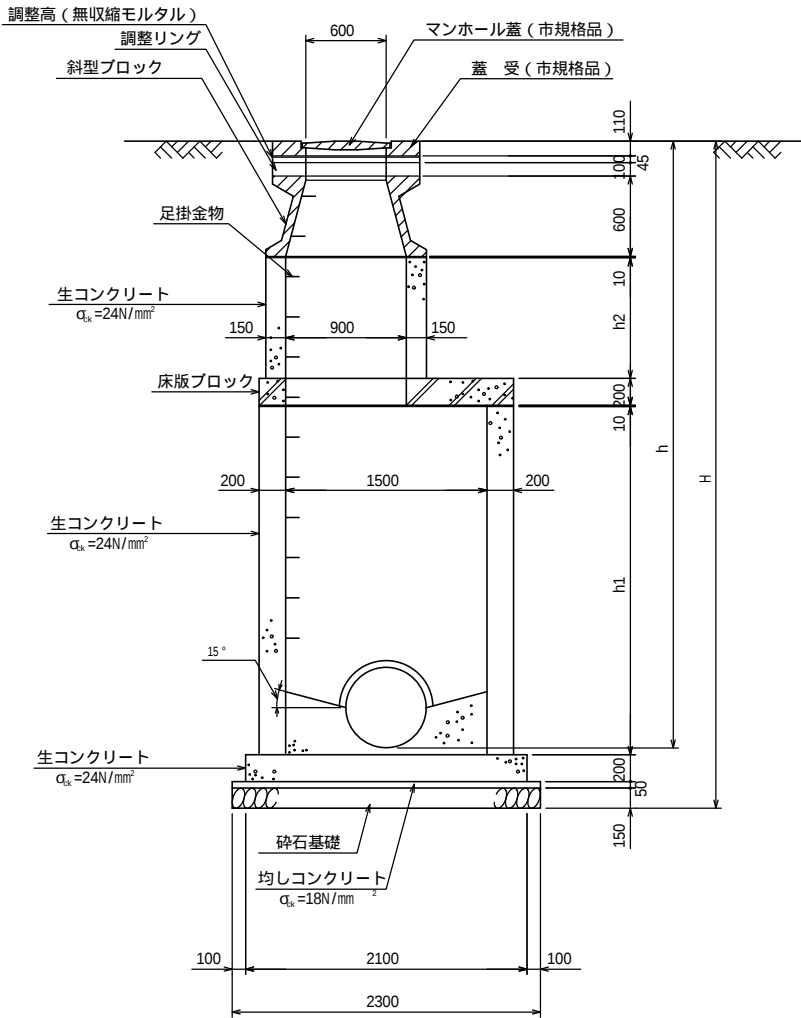
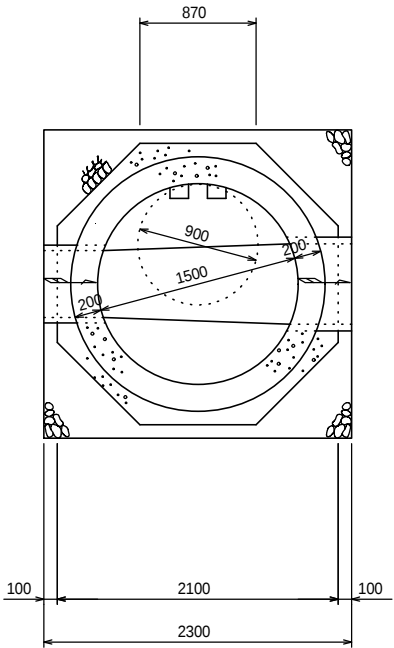
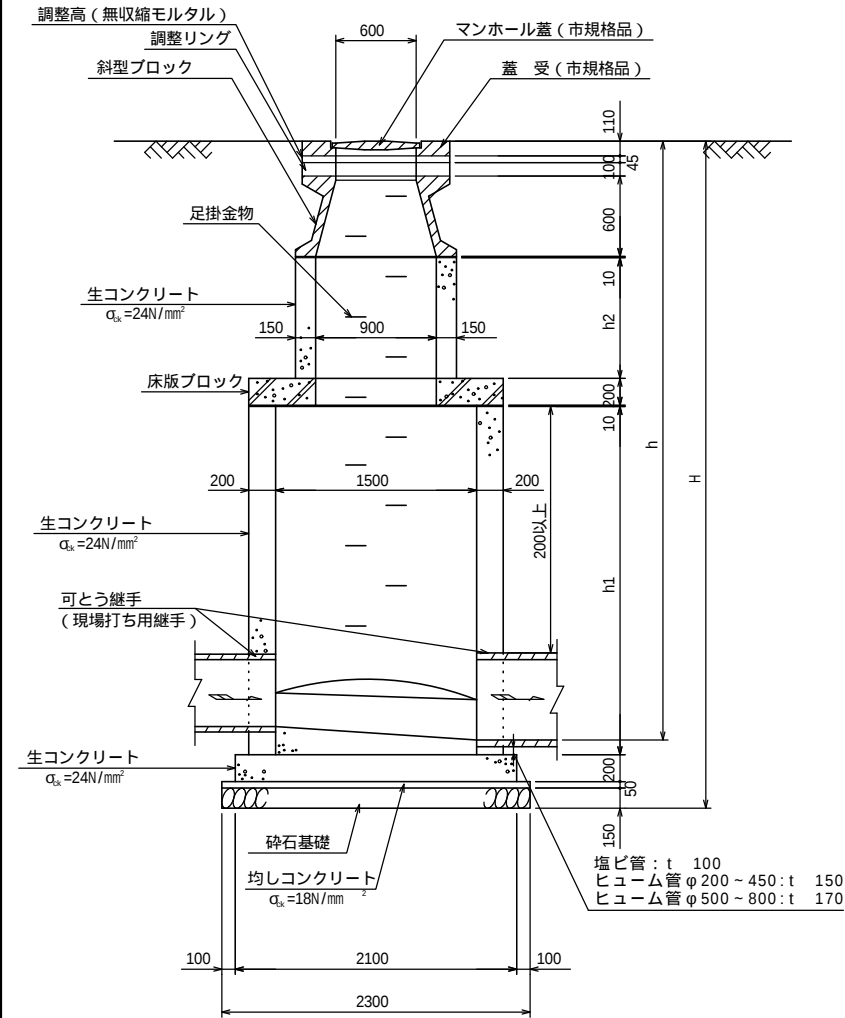
3号マンホール構造図

(内径1500耗円形) : 参考

h	床版	側壁	底版	均しコンクリート
5.0m未満	鉄筋(D13)	無筋	鉄筋(D13)	有り

適用範囲はh = 5 m未満とする。

1. 斜壁ブロックについて
組立用の斜壁ブロックを用いる場合は、連結直壁を設置すること。
2. 足掛金物の幅について
足掛金物の幅は150mmもしくは300～400mmを使用する。
3. 足掛金物の配置について
足掛金物の幅150mmを使用する場合は千鳥配置とし、幅300mm～400mmを配置する場合は、ストレートに配置する。



雨水の場合は泥溜 30 cmを確保すること

東広島市公共下水道標準施工図

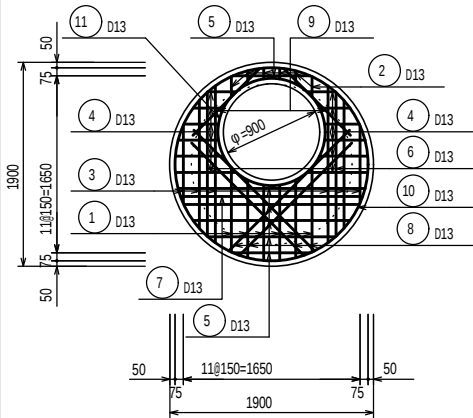
3号マンホール配筋図
(内径1500耗円形): 参考

配筋ピッチ及び鉄筋径については、土木構造物設計ガイドラインに沿って決定すること。

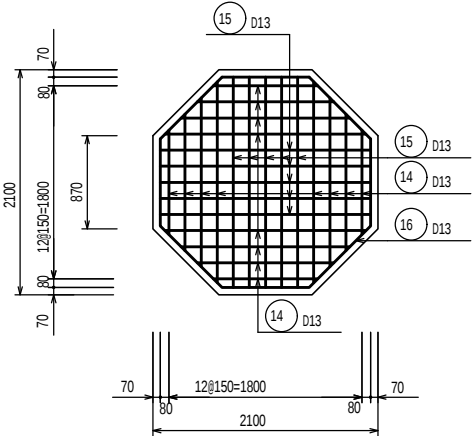
鉄筋加工図

種別	3号マンホール配筋図 (現場打): 参考	番号	
----	-------------------------	----	--

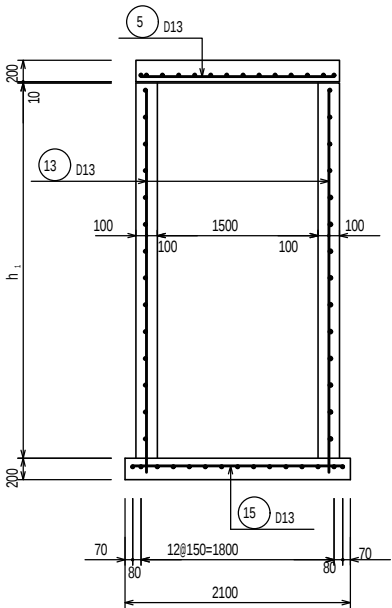
床版(2次製品)



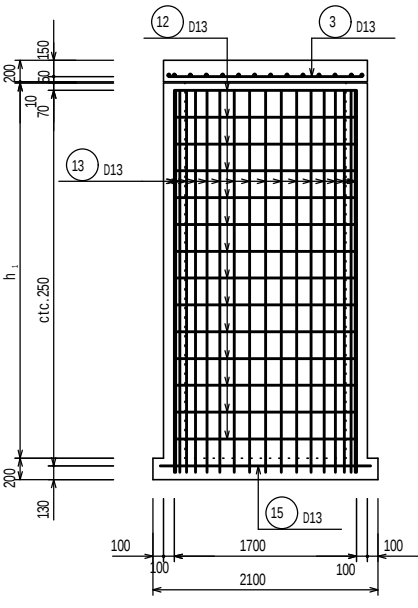
底板



断面図



側壁

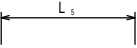


記号	L ₁	本数
① -1	758	2
① -2	703	2
① -3	682	2
平均長	714	6



① D13 X 720

記号	L ₁	本数
⑤ -1	1743	1
⑤ -2	1636	1
⑤ -3	1462	1
⑤ -4	1191	1
⑤ -5	719	2
平均長	1245	6

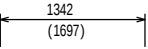


⑤ D13 X1250

記号	L ₁	本数
② -1	158	2
② -2	103	2
② -3	82	2
平均長	114	6

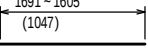


② D13 X 120



⑥ D13 X1350

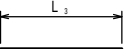
(⑦ D13 X1700)



⑧ D13 X1650

(⑨ D13 X1050)

記号	L ₁	本数
③ -1	1462	2
③ -2	1191	2
③ -3	719	2
平均長	1124	6



③ D13 X1130



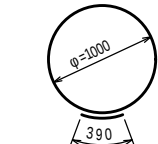
(⑩ D13 X3220

(⑪ D13 X5740)

記号	L ₁	本数
④ -1	537	2
④ -2	428	2
④ -3	345	2
④ -4	304	2
④ -5	262	2
④ -6	235	2
平均長	352	12



④ D13 X 360



⑪ D13 X3540

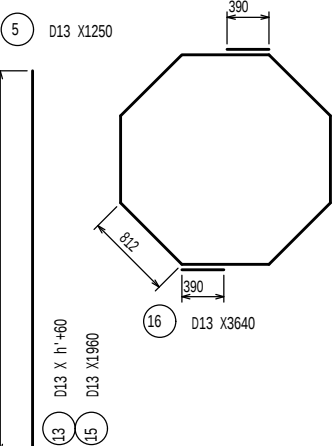
鉄筋表 SD345

記号	径	長さ(m)	本数	単位重量	1本当り重量(kg)	重量	摘要
①	D13	0.720	6	0.995	0.716	4.296	2次製品
②	"	0.120	6	"	0.119	0.714	"
③	"	1.130	6	"	1.124	6.744	"
④	"	0.360	12	"	0.358	4.296	"
⑤	"	1.250	6	"	1.244	7.464	"
⑥	"	1.350	2	"	1.343	2.686	"
⑦	"	1.700	1	"	1.692	1.692	"
⑧	"	1.650	4	"	1.642	6.568	"
⑨	"	1.050	2	"	1.045	2.090	"
⑩	"	3.220	2	"	3.204	6.408	"
⑪	"	3.540	1	"	3.522	3.522	"

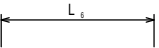
床版ブロック(市規格品) D13 46.480

⑫	D13	5.740	$h_1 \div 0.250$	0.995	5.711	$22.844h_1$	
⑬	"	$h_1 + 0.060$	36	"	$0.995(h_1 + 0.060)$	$35.820h_1 + 2.149$	150ピッチ
⑭	"	1.430	16	"	1.423	22.768	
⑮	"	1.960	10	"	1.950	19.500	
⑯	"	3.640	2	"	3.622	7.244	

D13 58.664h₁+51.661



記号	L ₁	本数
⑭ -1	1872	4
⑭ -2	1572	4
⑭ -3	1272	4
⑭ -4	972	4
平均長	1422	16

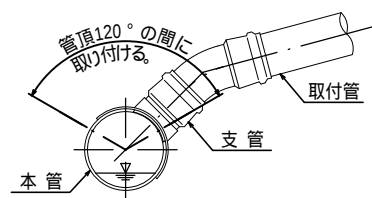
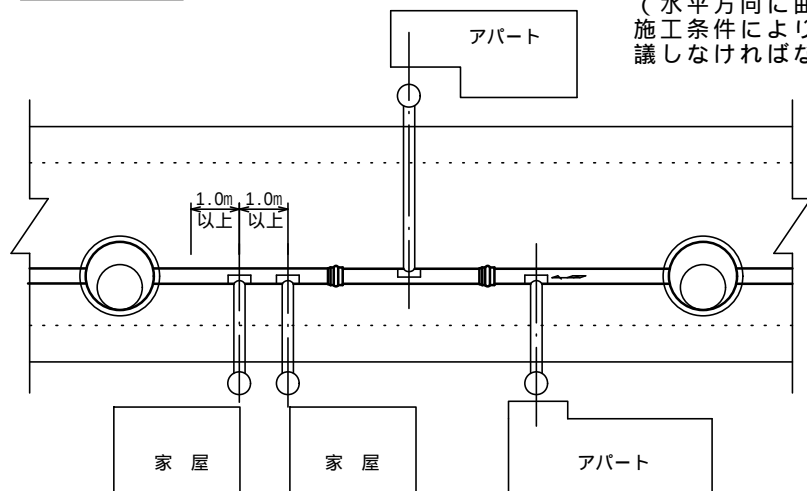


⑭ D13 X1430

東広島市公共下水道標準施工図

種別	取付管標準構造図 (Aタイプ, Bタイプ)	番号	/
----	--------------------------	----	---

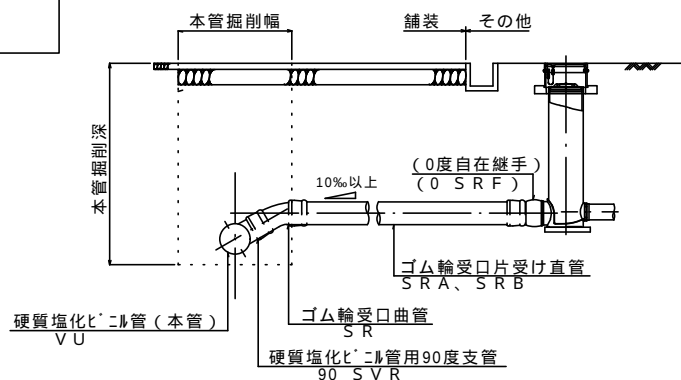
平面図



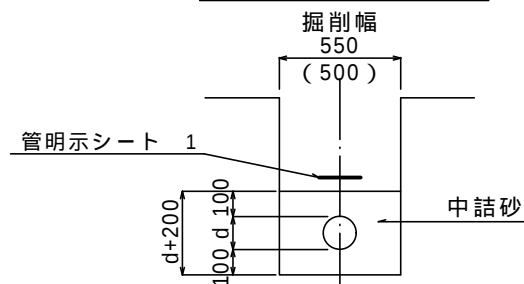
取付管標準構造図
(Aタイプ, Bタイプ)

取付管の布設は、本管に対して直角、かつ直線的に布設する（水平方向に曲管は不可）ように施工しなければならない。施工条件により直線的に布設できない場合は、監督職員と協議しなければならない。

A タイプ



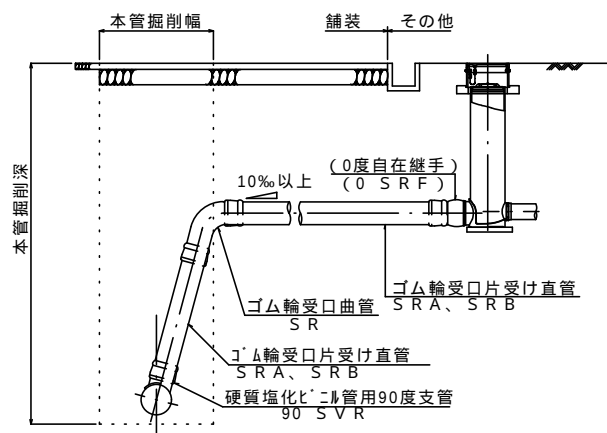
取付管基礎構造図



- ・基礎厚100mmはφ200mm以下の場合。
- ・()は取付管φ100mm場合。

1. 管明示シートは、路盤下+0.20m程度に布設する。

B タイプ



特記1： 桝の設置位置、深さ、種類、蓋類、復旧方法、施工管理方法等、事前に監督員と協議のうえ実施すること。

特記2： 公共桝を垂直に据付ること。

特記3： 公共桝と取付管の接続部の鉛直方向の角度が2°以上（取付管勾配約35%以上）の場合は0度自在継手を使用すること。

特記4： 0度自在継手の可とう部はプライマー処理の上、コーキングを行うこと。

特記5： 取付管で使用するゴム輪受口片受け直管は、SRBを指定するものではない。極力、継手の数を減らすように取付配管をする。

特記6： 支管の接合は樹脂系接合剤（二液型）を用いる。また原則として焼きなまし番線（#10）で圧着する。

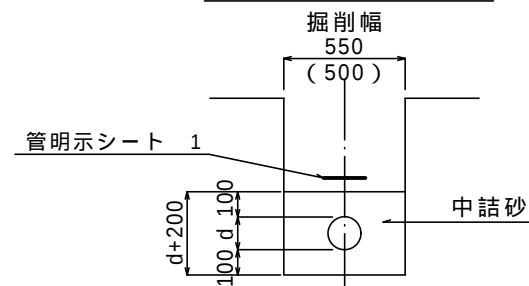
取付材料は市場単価に含まれている。
日本下水道協会規格 J S W A S 規格 K-1

東広島市公共下水道標準施工図

種別	取付管標準構造図 (Cタイプ, Dタイプ)	番号	／
----	--------------------------	----	---

取付管標準構造図
(Cタイプ, Dタイプ)

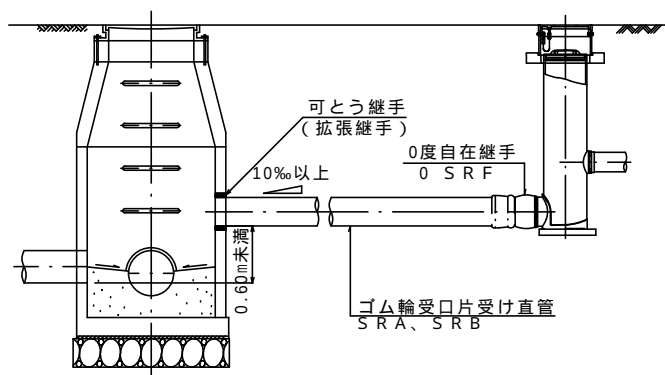
取付管基礎構造図



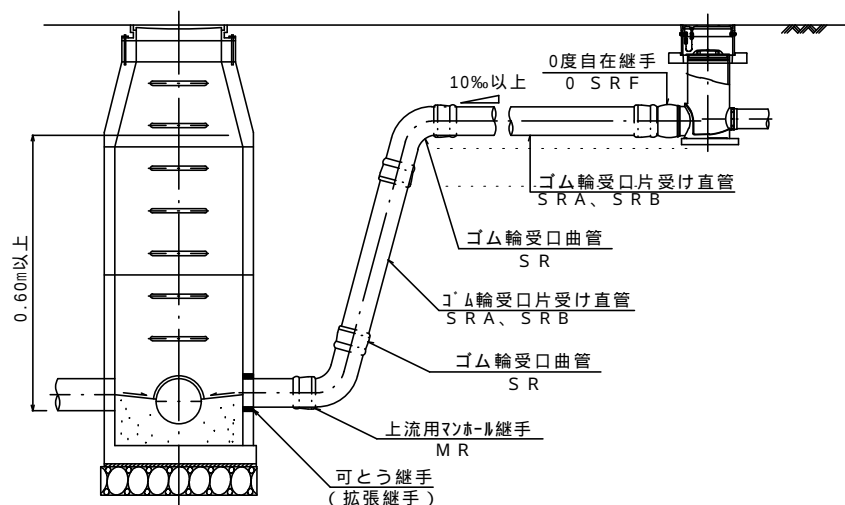
- ・基礎厚100mmはφ200mm以下の場合。
- ・()は取付管φ100mm場合。

1. 管明示シートは、路盤下+0.20m程度に布設する。

Cタイプ



Dタイプ



特記1： 枳の設置位置、深さ、種類、蓋類、復旧方法、施工管理方法等、事前に監督員と協議のうえ実施すること。

特記2： 公共枳を垂直に据付ること。

特記3： 公共枳と取付管の接続部の鉛直方向の角度が2°以上（取付管勾配約35%以上）の場合は0度自在継手を使用すること。

特記4： 0度自在継手の可とう部はプライマー処理の上、コーキングを行うこと。

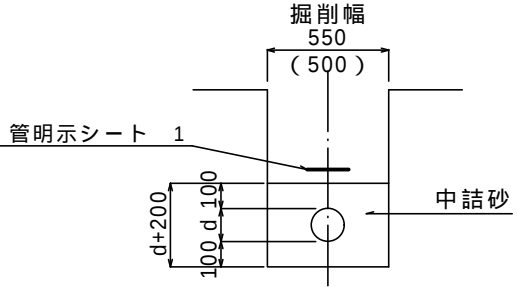
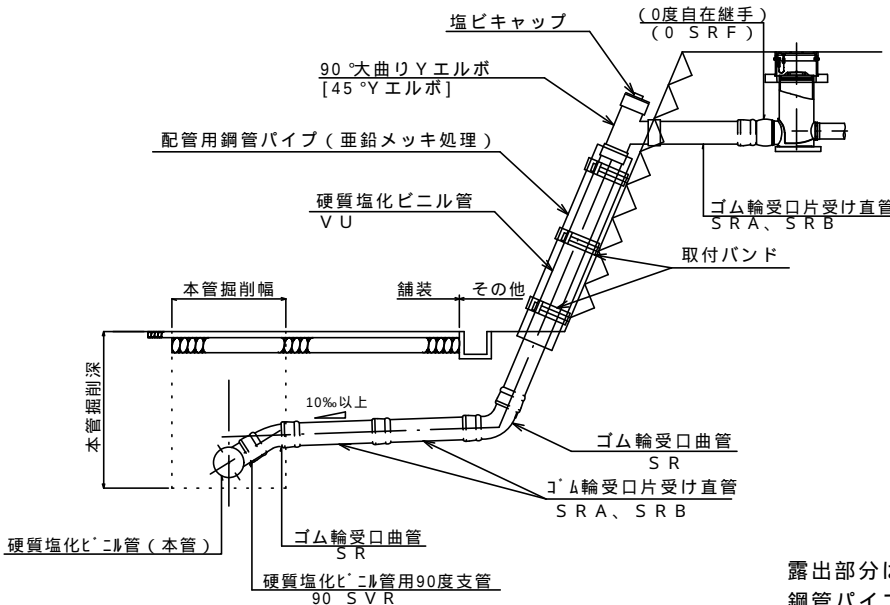
特記5： 取付管で使用するゴム輪受口片受け直管は、SRBを指定するものではない。極力、継手の数を減らすように取付配管をする。

取付管材料は市場単価に含まれている。

東広島市公共下水道標準施工図			
種別	取付管標準構造図 (露出配管)	番号	／

取付管標準構造図 (露出配管)

取付管基礎構造図



- ・基礎厚100mmはφ200mm以下の場合。
- ・()は取付管φ100mm場合。
- 1.管明示シートは、路盤下+0.20m程度に布設する。

露出部分は、配管用鋼管パイプ(亜鉛メッキ処理)の中にVUを布設する。
鋼管パイプと取付管の空隙は、エアモルタル等での充填又はエポキシ樹脂系目地材等による上下端部の閉塞・固定を行なうこと。
埋設部はAタイプ・Bタイプを参照。

- 特記1： 柵の設置位置、深さ、種類、蓋類、復旧方法、施工管理方法等、事前に監督員と協議のうえ実施すること。
- 特記2： 公共柵を垂直に据付ること。
- 特記3： 公共柵と取付管の接続部の鉛直方向の角度が2°以上(取付管勾配約35%以上)の場合は0度自在継手を使用すること。

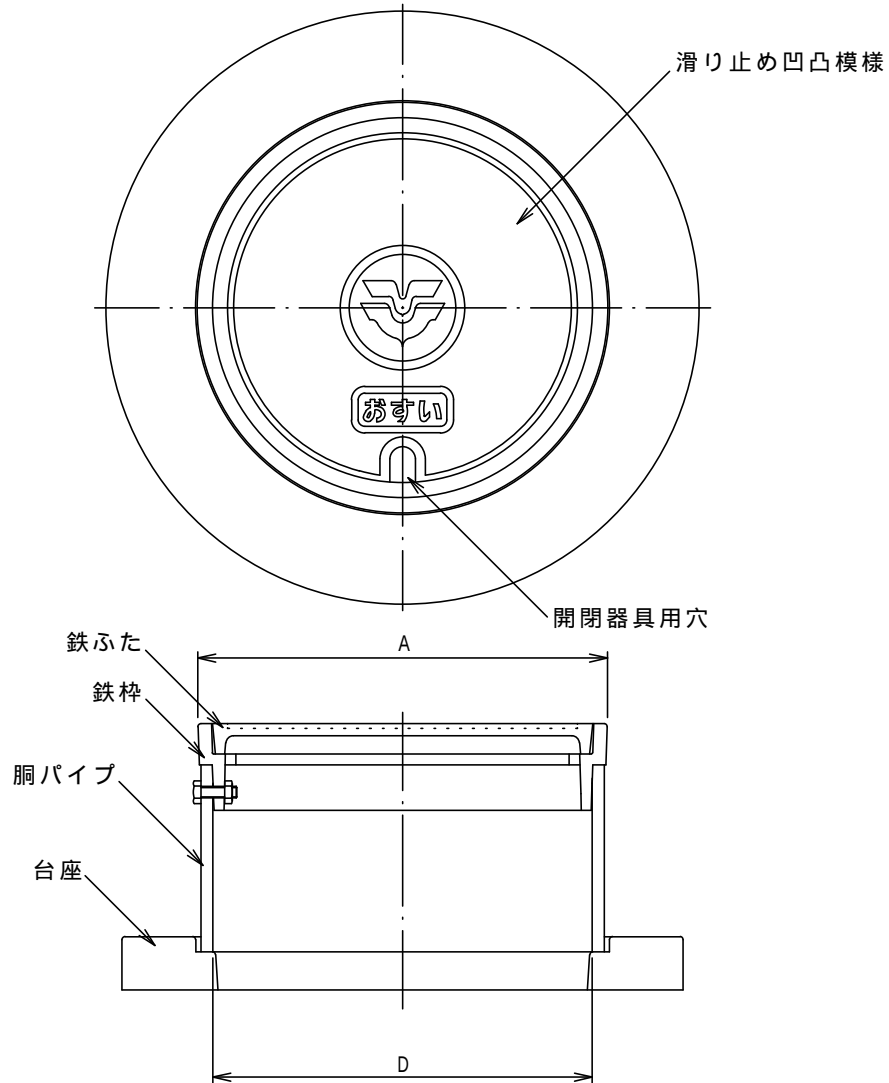
- 特記4： 0度自在継手の可とう部はプライマー処理の上、コーキングを行うこと。
- 特記5： 取付管で使用するゴム輪受口片受け直管は、SRBを指定するものではない。極力、継手の数を減らすように取付配管をする。
- 特記6： 支管の接合は樹脂系接合剤(二液型)を用いる。また原則として焼きなまし番線(#10)で圧着する。

取付材料は市場単価に含まれている。
日本下水道協会規格J S W A S 規格 K-1

東広島市公共下水道標準施工図

種 別	公共樹（汚水）用蓋 立上り管φ200用 防護蓋タイプ T-8	番 号	／
--------	-----------------------------------	--------	---

公共樹（汚水）用蓋 立上り管φ200用
防護蓋タイプ T-8



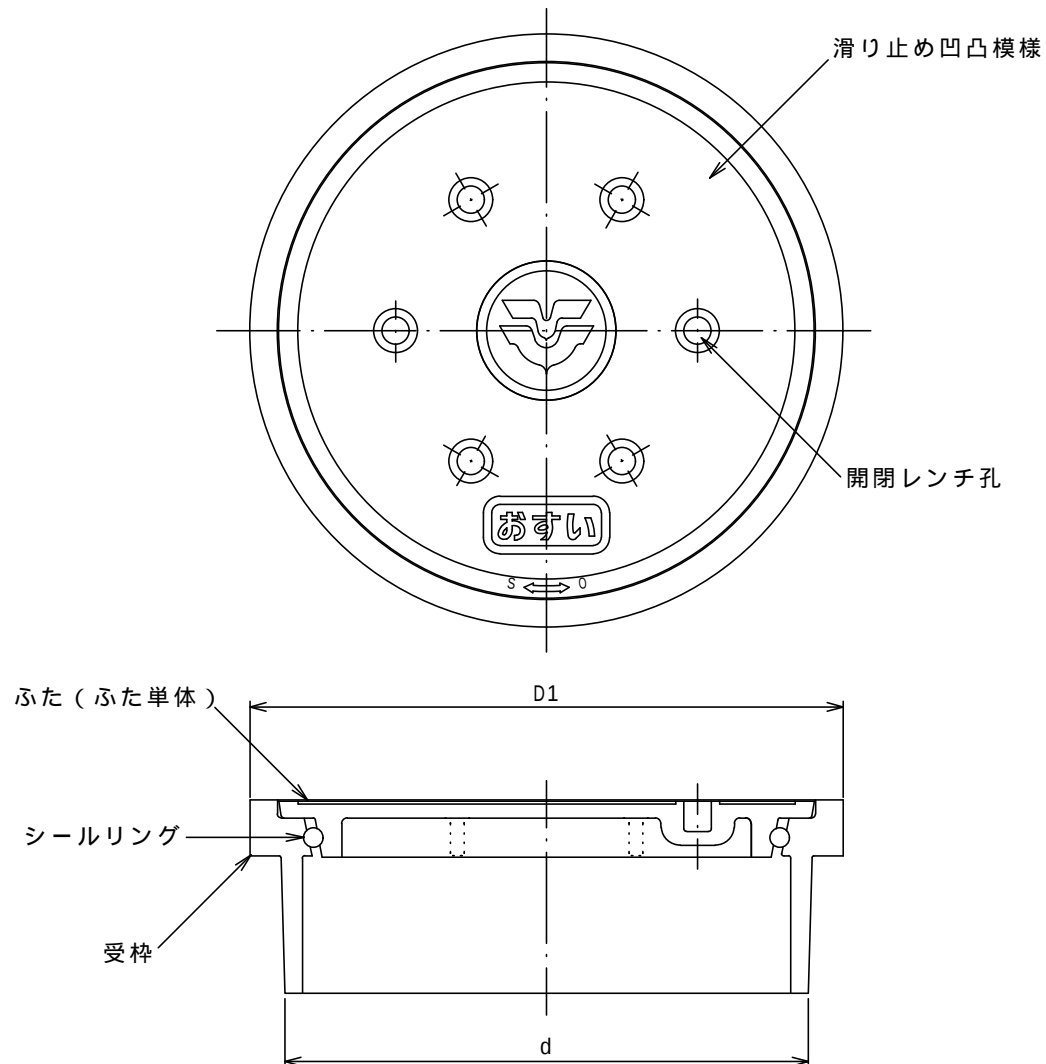
鉄蓋の材料は、市場単価に含まない。(T8B)
設置手間は、市場単価に含む。

日本下水道協会規格 J S W A S 規格 G-3

東広島市公共下水道標準施工図

種 別	公共樹（汚水）用蓋 φ200 塩ビ製蓋タイプ T-2	番 号	/
--------	-------------------------------	--------	---

公共樹（汚水）用蓋 φ200
塩ビ製蓋タイプ T-2

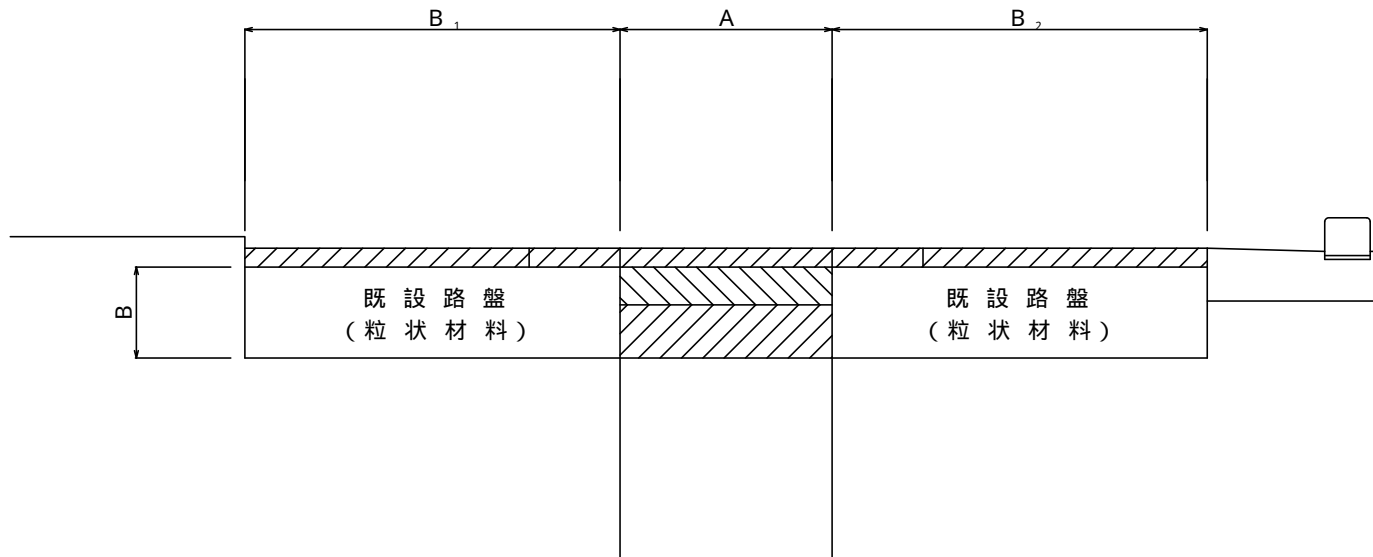


公共樹用蓋（塩ビ製）材料は市場単価（塩化ビニル製蓋）に含む。
 （樹径 φ200mm, φ300mm）
 公共樹用蓋は、挿口タイプおよび受口タイプのどちらも使用可。（BI, BO）
 日本下水道協会規格 J S W A S 規格 K-7

種 別	舗装復旧施工図	番 号	/
--------	---------	--------	---

舗 装 復 旧 施 工 図

[車線単位の場合]



$$\text{表層工 復旧幅} = (A + B_1 + B_2)$$

$$\text{路 盤 復旧幅} = A$$

ここに A ; 掘 削 幅

B₁ ; Aの端から舗装の絶縁線（目地，版端等を言う）までの距離

B₂ ; Aの端から舗装の絶縁線までの距離

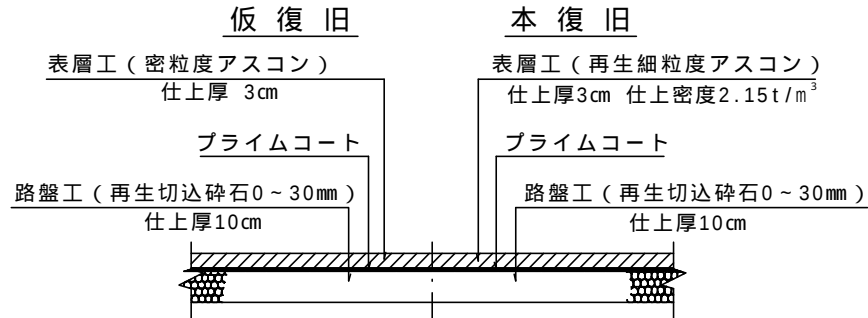
掘削幅のみ舗装復旧を行う場合は、既設路盤分Bを影響幅として舗装復旧を行う。

東広島市公共下水道標準施工図

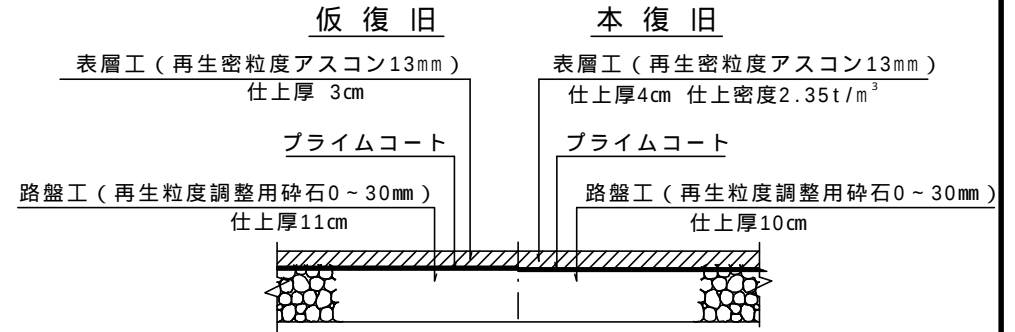
種 別	舗装復旧構成図(1/2)	番 号	／
--------	--------------	--------	---

舗装復旧構成図(1/2)

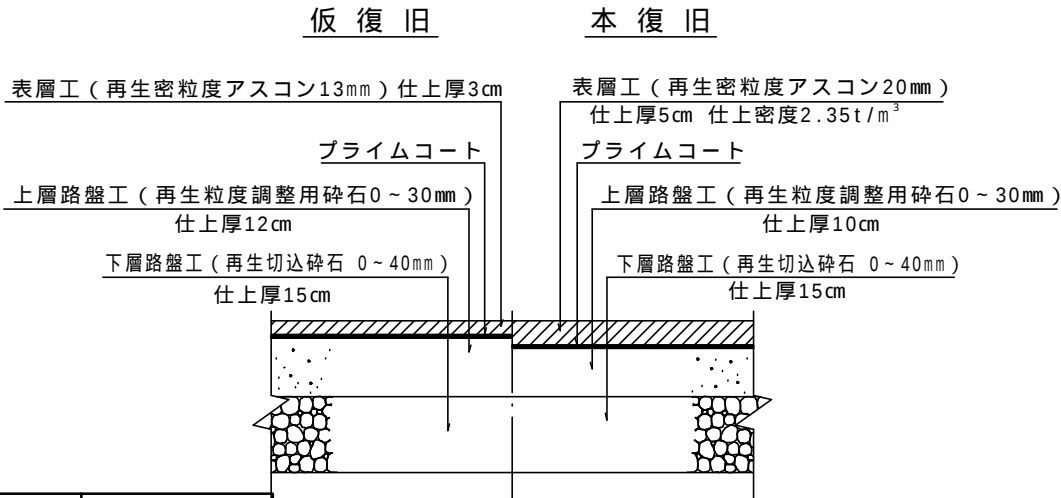
As - 3 - 10



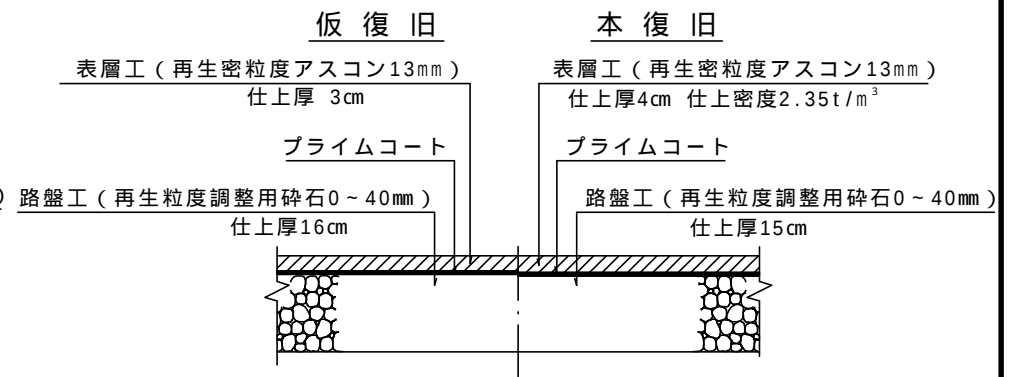
As - 4 - 10



As - 5 - 10 - 15



As - 4 - 15



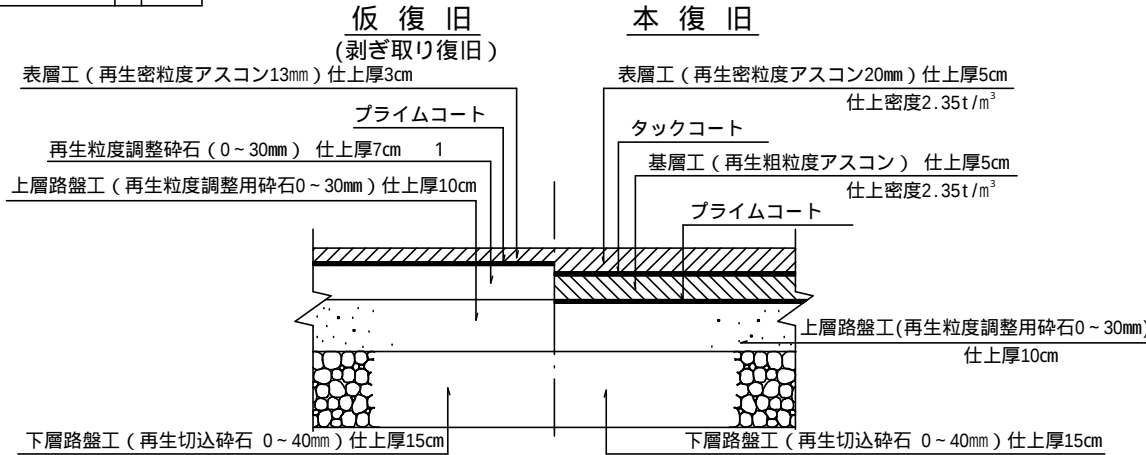
上層路盤厚	12cm未満	RM-30
	12cm以上	RM-40
下層路盤厚	12cm未満	RC-30
	12cm以上	RC-40

東広島市公共下水道標準施工図

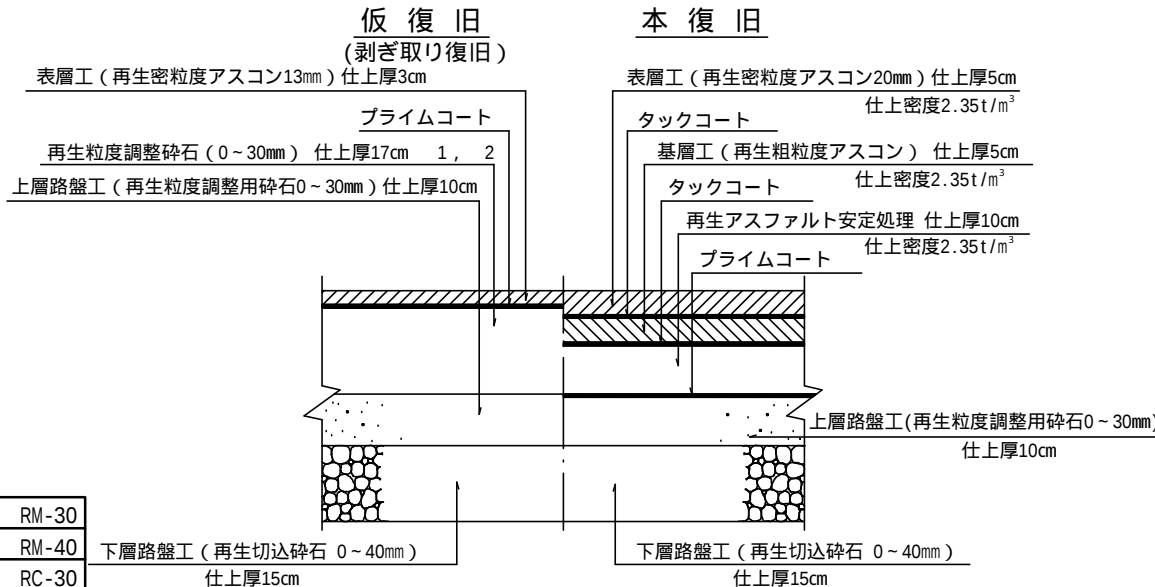
種別	舗装復旧構成図(2/2)	番号	／
----	--------------	----	---

舗装復旧構成図(2/2)

As - 5 - 5 - 10 - 15

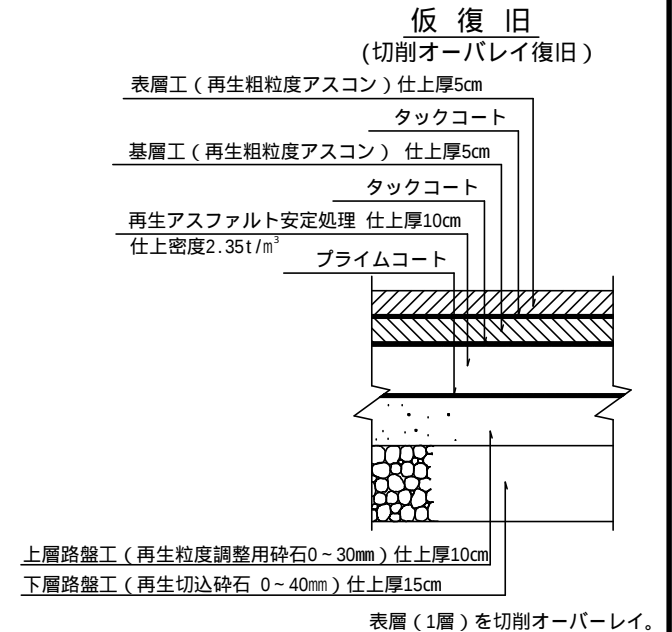
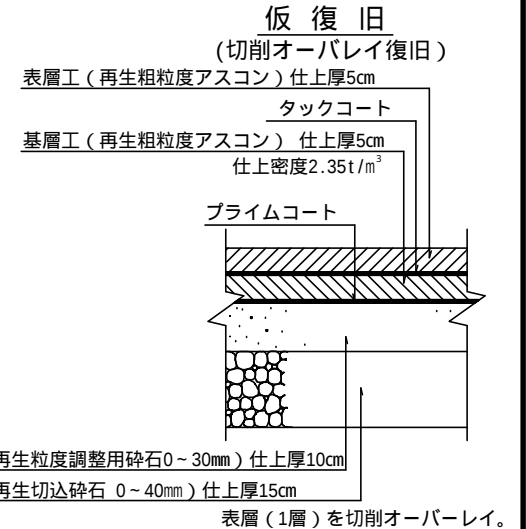


As - 5 - 5 - 10 - 10 - 15



上層路盤厚	12cm未満	RM-30
	12cm以上	RM-40
下層路盤厚	12cm未満	RC-30
	12cm以上	RC-40

- 1: 本材料は舗装剥ぎ取り時の不陸整正用として使用するため、復旧形態に合わせた材料選定を行う。
 2: 仕上厚は復旧形態により、変更する場合がある。



東広島市公共下水道標準施工図

種 別	舗装復旧構成図 (参考:国交省タイプ)	番 号	/
--------	------------------------	--------	---

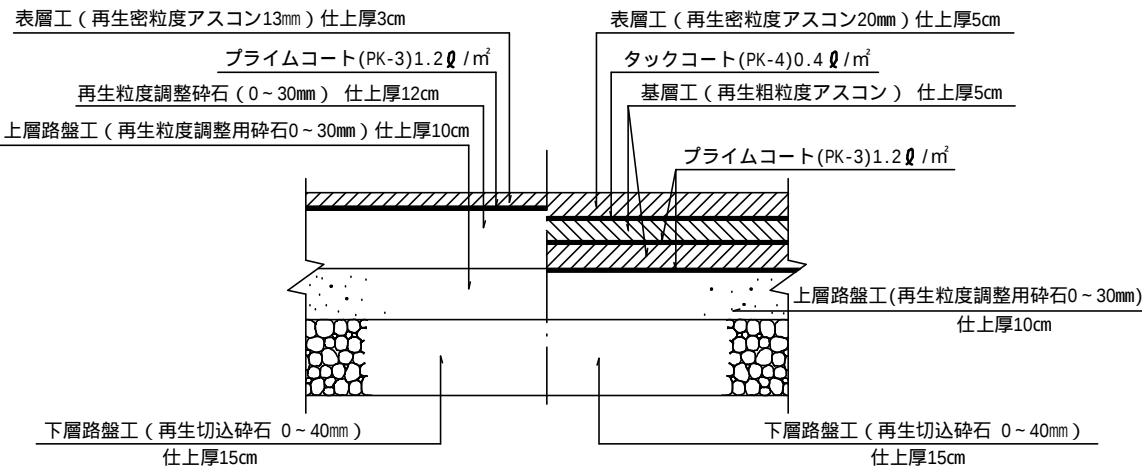
舗装復旧構成図

(参考:国交省タイプ)

As - 5 - 5 - 5 - 10 - 15

仮復旧

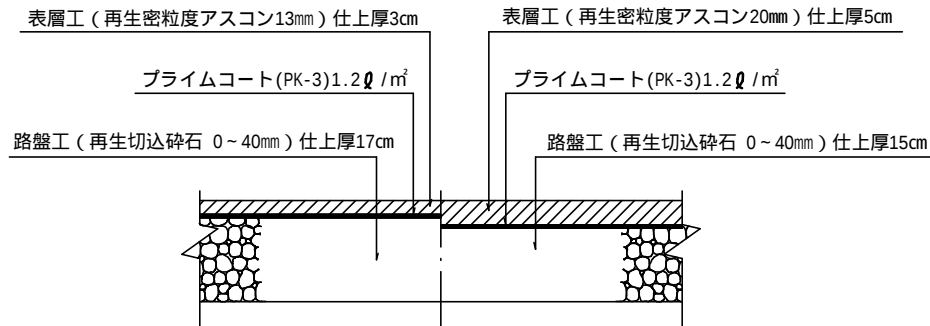
本復旧



路肩: As - 5 - 15

仮復旧

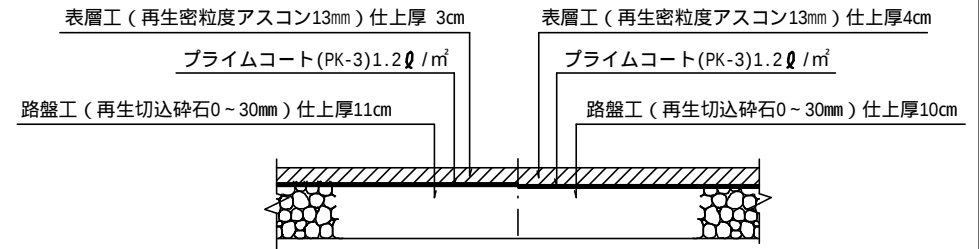
本復旧



歩道: As - 4 - 10

仮復旧

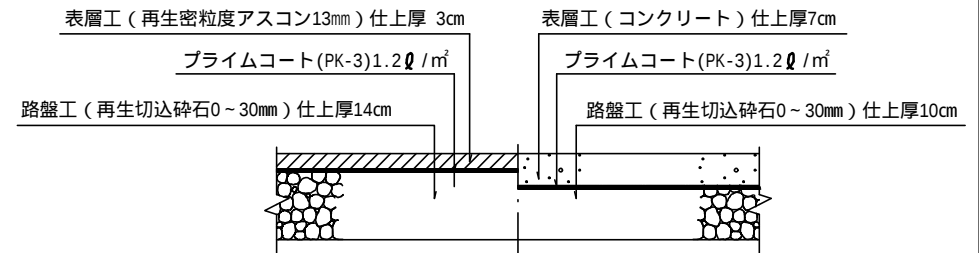
本復旧



歩道: Co - 7 - 10

仮復旧

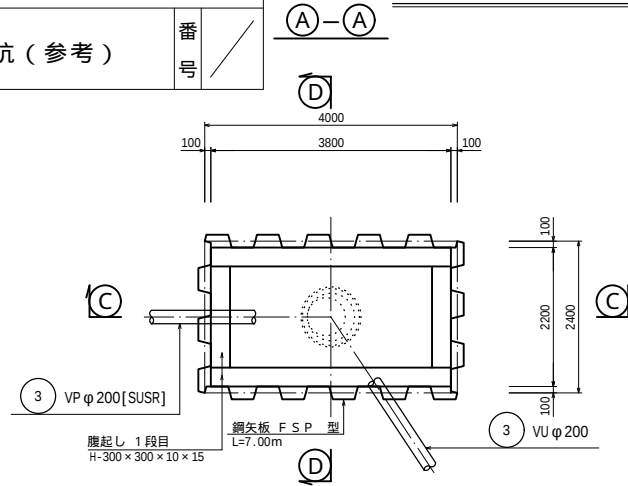
本復旧



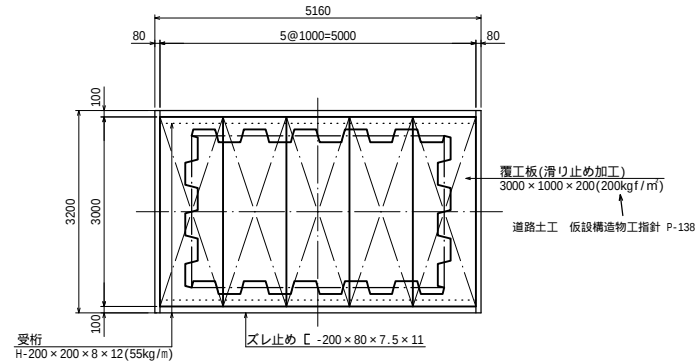
東広島市公共下水道標準施工図

鋼矢板立坑 □4000×2400

種別	鋼矢板立坑（参考）	番号
----	-----------	----



覆工板配置図

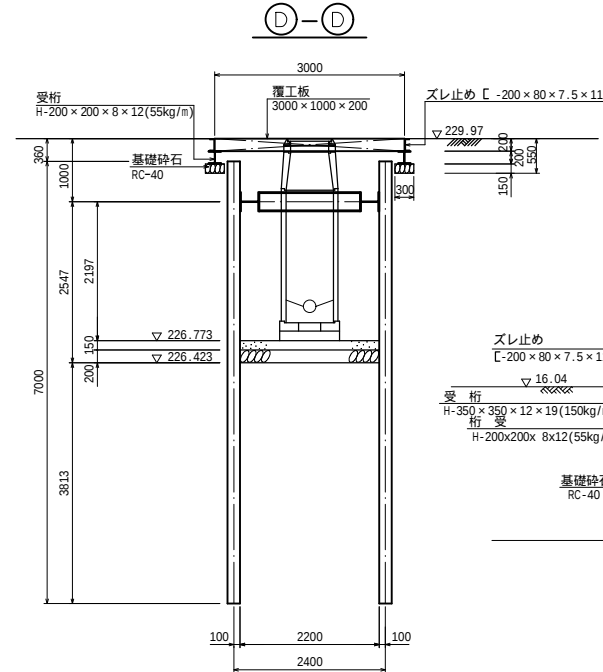
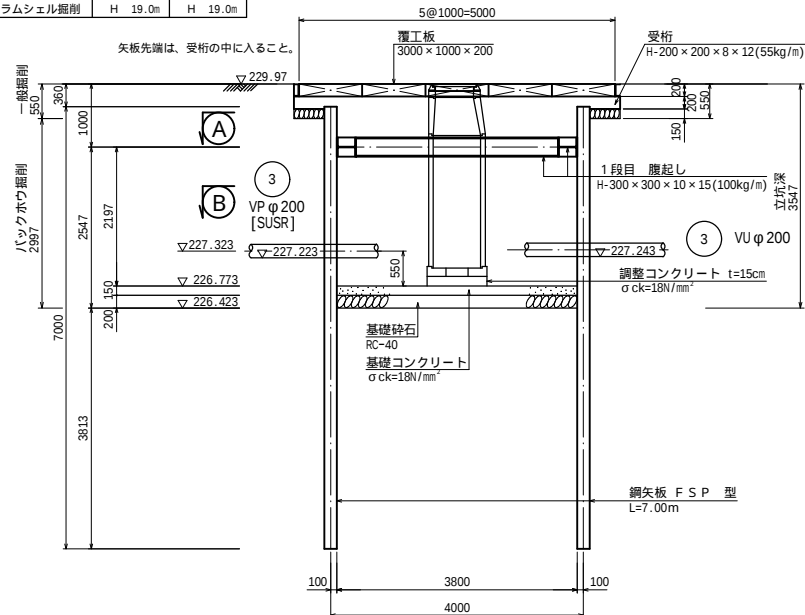


立坑基礎(1)		
	発進立坑	到達立坑
基礎コンクリート	0.15	0.10
基礎砕石	0.20	0.10

立坑基礎(2)		
	発進立坑	到達立坑
基礎コンクリート	0.10	0.10
基礎砕石	----	----

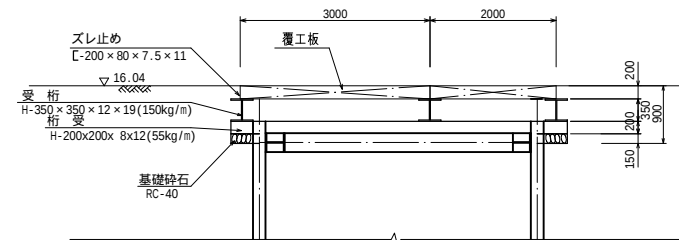
基礎部分が基礎面およびJSG・コラムの場合を示す。

立坑面積A(m²)	A 25	25 < A 50
バックホウ掘削 1	H 4.5m	H 6.0m
コラムシェル掘削	H 19.0m	H 19.0m



覆工平面図

覆工板が2枚の場合



受桁のサイズなどについては、構造計算を行い決定すること。

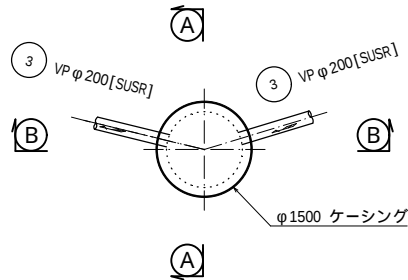
立坑深が4.0mを超えた場合、重要仮設となる。
根入れ長さは、計算上満足する長さで決定しなければ、下記に示す内容については例外である。
比較的硬質な地盤では、必要根入れ長が非常に小さく計算される場合があるが、土留め壁根入れ部の十分な拘束を考慮して土留め壁の最小根入れ長を3.0mとして規定している。しかし、非常に硬質な地盤のため、施工上最小根入れ長を確保することが困難な場合は、最小根入れ長を短くする。基礎面+αmと決定する。その際、基礎面の位置がずれていないか確認する必要がある。

東広島市公共下水道標準施工図

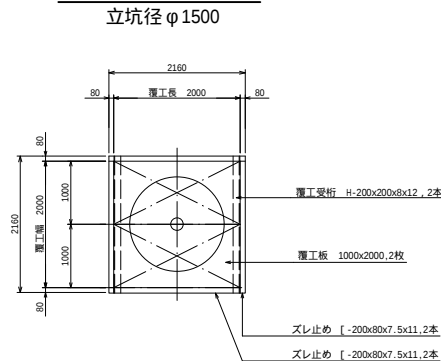
種別	小型立坑鋼製方式ケーシング立坑	番号	参考
----	-----------------	----	----

小型立坑鋼製方式ケーシング立坑

平面図

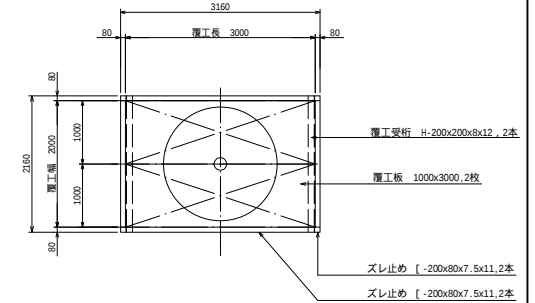


覆工平面図

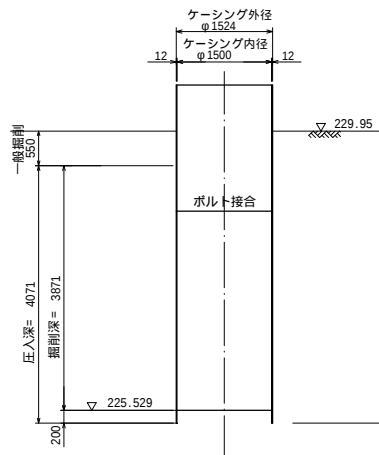


覆工平面図

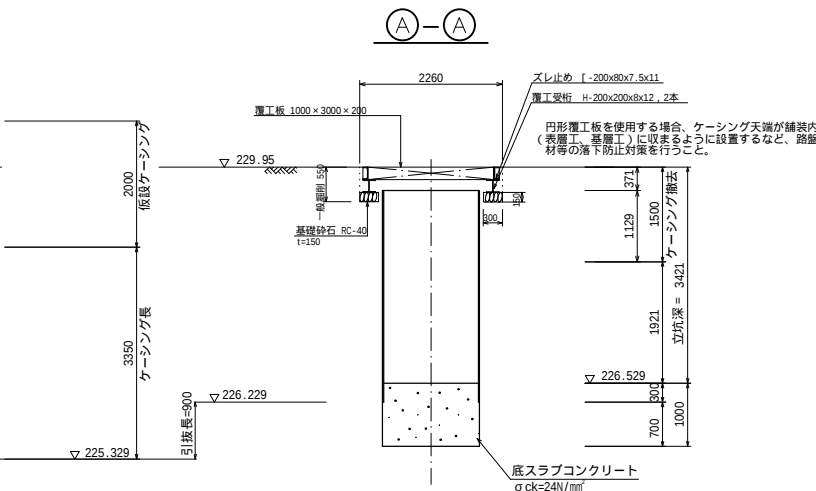
立坑径 φ1800



圧入掘削完了時



立坑築造完了時



項目	ケーシング (mm)		
	外径	内径	厚さ
φ1500	1524	1500	12
φ1800	1824	1800	12
φ2000 h ≤ 6.0m	2024	2000	12
φ2000 h > 6.0m	2032	2000	16
φ2500	2538	2500	19
φ3000	3044	3000	22

項目	ケーシング		底盤コンクリート
	引上げ長	根入れ長	厚さ
φ1500	0.90m	0.30m	1.0m
φ1800	0.90m	0.30m	1.0m
φ2000	0.90m	0.30m	1.0m
φ2500	1.20m	0.50m	1.5m
φ3000	1.20m	0.50m	1.5m

立坑基礎 (2)		
項目	発進立坑	到達立坑
基礎コンクリート	0.15	0.10
基礎砕石	0.20	0.10

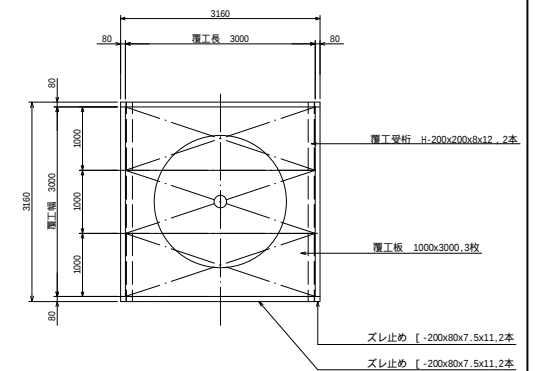
地下水位がない場合を示す。

立坑基礎 (3)		
項目	発進立坑	到達立坑
基礎コンクリート	0.10	0.10
基礎砕石	----	----

基礎部分が基礎面およびJIS・コラムの場合を示す。

覆工平面図

立坑径 φ2000

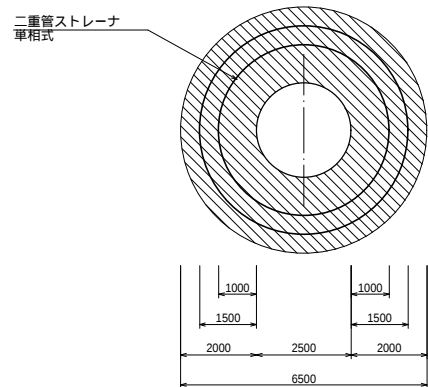


1. 地下水位がない場合は、基礎コンクリート0.15mと砕石基礎0.20mを設け、ケーシングの引抜きを行わない。
2. ケーシング撤去長は基本的にSL+1.5mまで撤去するが、入孔築造のためケーシングを型枠替わりにする場合は例外である。
3. ケーシング厚さの表記は

1. ガイドコンクリートに受け桁がかからないこと。ガイドコンクリートは、受桁の中に入れること。
2. 掘削底面が基礎盤の時は、基礎コンクリートのみとし基礎厚10cmとする。

種 別	薬液注入工(参考)	番 号	／
--------	-----------	--------	---

薬液注入工

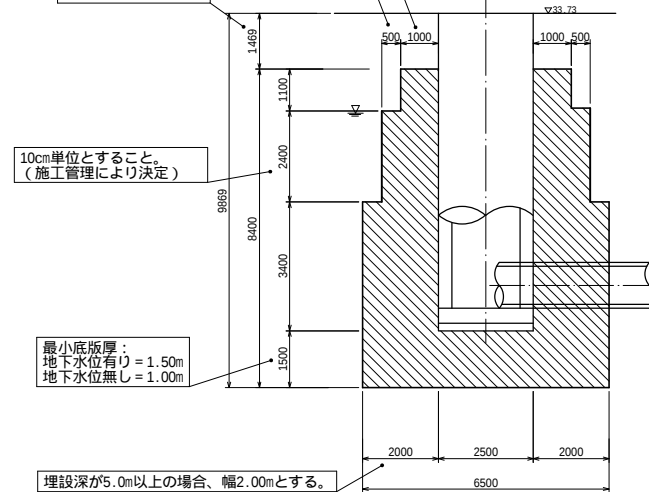
立坑 $\varnothing 2500$ 

地下水位がGL-1.5m以内に出現した場合、地下水位を確認した水位かつ、一般掘削下であるところから、薬注を打設する。

地下水位がない区間は、深さに関係なく幅1.00mとする。

地下水位がある区間は、埋設深5.0mまでを幅1.50mとする。

1.50mを越えないこと



上記数字は、最小値を示しているため、計算を求め決定すること。